

平成30年度 事業計画・収支予算

学校法人 日本赤十字学園

目 次

I 事業計画

第1. はじめに ～「魅力ある大学、選ばれ続ける大学へ」一層の飛躍を～	2
第2. 事業運営の基本方針	4
1. 赤十字の理念に基づく特色ある教育の充実	
2. 質の高い教育研究の推進	
3. 合理的・適正な業務運営の実施	
第3. 事業計画	
1. 学生の収容計画及び教職員の配置計画	6
(1) 学生の収容計画	
(2) 教職員の配置計画	
2. 教育の充実・強化	8
(1) 赤十字の特色ある教育の推進と人材育成	
① 赤十字の理念に基づく教育の充実	
② 保健・医療・福祉の現場を支える人材の育成	
③ 内外の赤十字活動を担う人材の育成	
④ 赤十字ネットワークとの連携	
(2) 質の高い教育の実践	
① 学部・学科の教育課程の充実・改善	
② 大学院教育の充実、専門看護師の養成	
③ 認定看護師の養成	
④ 6大学の連携強化	
3. 優秀な学生の確保と学生支援	15
(1) 入学者選抜方法の検討	
(2) 学生への支援策の強化、推進	
4. 研究の充実・強化	18
(1) 研究活動の充実・強化	
(2) 日本赤十字国際人道研究センター事業の充実・強化	
5. 社会貢献の拡充・強化	18
(1) 地元自治体との連携・協力の促進	
(2) 地域住民への生涯学習の場の提供	
(3) 社会的活動の促進	
6. 業務運営の改善・推進	21
(1) 大学ガバナンスの強化	
① 学長のリーダーシップの発揮	
② 監事機能の充実	
③ 法人・大学の諸規程の見直し	

- ④ 効率的な大学運営の強化
- ⑤ コンプライアンスの強化
- ⑥ 広報活動の充実・強化
- (2) 財政基盤の確立
 - ① 経営意識の醸成
 - ② 経営基盤の確立
 - ③ 教育研究向上のための財源確保
- (3) 人材の確保と育成
 - ① 人事交流等の促進
 - ② 教職員研修の充実・強化
 - ③ 教職員モラル・人権意識の向上
- (4) 危機管理体制の構築
 - ① 危機管理と安全管理
 - ② 環境意識の向上とエコ対策
- (5) 質保証システムの構築
- (6) 校友ネットワークの強化
- (7) 日本赤十字看護大学さいたま看護学部の設置準備の推進
- (8) 大学新設構想の検討

II 収支予算

第1. 予算編成の基本方針	27
1. 予算編成の基本方針	
(1) 特色ある大学作りの推進	
(2) 計画性を持った施設設備の整備	
(3) 第二次中期計画に沿った事業展開	
第2. 予算の概要	29
(1) 資金収支予算	
(2) 事業活動収支予算	
① 事業活動収入	
② 事業活動支出	
③ その他	
第3. 収支予算書	35
1. 資金収支予算書	
2. 資金収支予算内訳表	
3. 事業活動収支予算書	
4. 事業活動収支予算内訳表	

I 事業計画

第1. はじめに ～「魅力ある大学、選ばれ続ける大学へ」一層の飛躍を～

日本赤十字学園は、日本赤十字社の看護師養成の高等教育部門として創設され、赤十字の看護師の養成にあたり重要な役割を担ってきた。

昭和29年の開設以来60年余の間、1万8,000名を超える卒業生を輩出し、現在は、平成28年度に開設した5大学による看護学研究科共同看護学専攻（後期3年博士課程）を加えて、全国6大学に看護学部と看護学研究科（修士課程7専攻、博士後期課程6専攻、博士課程1専攻）及び1短期大学（介護福祉学科）を設置している。

国は、本格的な人口減少社会等が一層進むなか、20数年先を見据えた高等教育の将来構想について検討を始めている。2040年頃の18歳人口は、現在の3分の2にあたる88万人に減少すると予測され、国・公・私立大学の役割分担や設置者の枠を超えた連携・統合など高等教育全体の規模も視野に、各高等教育機関の機能強化、学修の質の向上、教育研究や学生への経済的支援の観点から議論が進められている。18歳人口が減少し、課題が山積するなかで、引続き選ばれ続ける大学であるために、本学園にとっても、人口減少への対応は急務である。

現在、各大学機関においては、それぞれの将来を見据えるとともに、喫緊の課題として、建学の精神や特色を活かした質の高い教育研究活動、大学組織の変革、教育の多様化とカリキュラムの明確化、教員の教授力の質的向上など、大学の存続をかけて取り組むべき課題に直面している。一方、2020年度以降の18歳人口の急激な減少や経済社会の目まぐるしい変化に対応するため、全学生の7割を超える学生を受入れている私立大学の教育研究の一層の充実の必要性等が問われているところにある。

平成29年度の私立大学の「入学定員未充足率（入学定員割れ）」は、平成28年度より28校減の229校で全私立大学に占める割合も5.1ポイント下降の39.4%となり、6年振りに30%台に好転したものの、学校経営の厳しい環境は変わらない。このような環境の内であって、看護系大学は、大学・学部の新設は止まらず、その数はこの10年間で2倍以上の255大学、265課程（平成29年4月）を数え、今後も増加傾向が予想されている。

厳しさを増し、変革を求められる大学経営環境を踏まえつつ、数多く有る看護系大学のなかから学生、保護者、また教員から信頼を得て選ばれ続ける、魅力ある赤十字の看護大学を構築するためには、知識と技術を兼ね備えた社会の要請にかなう人材を育成しなければならず、学園全体で取り組む必要のある課題として認識し、その対応を堅実に進めていくこととする。

平成30年度においては、最終年度を迎える日本赤十字学園第二次中期計画（平成26年度～30年度）の目標達成に向けて、

- ①質の高い教育を实践する大学
- ②社会の変化に対応できる大学
- ③6 大学の連携の強みを生かした大学
- ④地域に貢献する開かれた大学
- ⑤健全な経営基盤に立つ成長する大学

という、当学園の設立理念・ビジョンに基づき、質の高い教育の提供・研究活動を強力に推進し、優秀な学生の確保策の検討及び財政基盤の確立に向けた基本金組入れ等施策の着実な実施等、合理的・適正な業務運営のための諸課題の解決に取り組んで行く。

第2．事業運営の基本方針

平成30年度は、当学園の事業運営の3つの基本方針、

1. 赤十字の理念に基づく特色ある教育の充実
2. 質の高い教育研究の推進
3. 合理的・適正な業務運営の実施

に沿って策定された第二次中期計画(平成26年度～平成30年度)の最終年次であり、これに掲げた各大学の事業目標を達成するために必要な事業を中心に実施する。

なお、本計画の推進には、学長の強いリーダーシップと全教職員の連携、連帯が必須であり、事業到達の前倒しを含め内容の逐次見直しも視野に入れた取組みを実行する。

1. 赤十字の理念に基づく特色ある教育の充実

赤十字学園として赤十字の看護師養成を担うことが基本的な目的であることを踏まえ、赤十字概論、国際人道法等、赤十字の精神に基づく大学教育を推進する。このため、全大学に赤十字分野における専任教員の配置を予定していく。

さらに、臨床実践に止まらない災害看護学、国際看護学、国際関係論等の授業の実施(提供)により特色ある教育を展開するとともに、海外教育機関との交流及び海外体験を促進し、国内外フィールドで活躍できる人材の養成を精力的に実施する。

また、日本赤十字社支部・施設及び地元自治体等と連携した災害救護訓練や赤十字イベントに積極的に参加するとともに、学内献血や会員・会費募集、NHK 海外たすけあいキャンペーン等への積極的、主体的な関与を推進する。

2. 質の高い教育研究の推進

大学教育の質の向上は各方面から期待されていることから、質の高い看護・介護の専門職者養成のため学部・学科教育課程の質の向上を図り、高い専門的知識、技能を効果的に身につける教育を推進する。

同時に急速に変化する先行き不透明な時代にあって、自ら主体的に判断して行動し、問題解決に取り組む能力は現代を生きる上で不可欠な資質であり、こうした能力を育み体得できる教育も推進する。これに連動し、学生自身の能力を適正に評価する「入学者選抜方法」の改善についても、充実した制度になるよう引続き取り組むこととする。

また、全6大学に設置している博士後期課程を通じ、高度な実践知を基盤として、自立した研究活動と研究指導ができる研究者、質の高い看護学の教育を提供できる教育者、知的複眼思考・論理的思考に基づき発展的に看護を實踐できる人材を育成できる教育を推進する。

併せて、研究分野においても大学の安定経営の一助となる外部資金の一層の獲得のための方法・戦略等を検討し、より質の高い研究に取り組むこととする。

3. 合理的・適正な業務運営の実施

大学運営を効率的に行うためには、運営体制の整備とその意思決定の迅速性が求められていることから、教学による教育・研究の改善努力を円滑に実現し、発展させるため、学園全体としての相互理解を深め、調和のとれた関係を構築して大学の運営を行う。

大学ガバナンスについては、学長を中心としたガバナンス体制を更に強化しつつ、大学間の連携を一層密にしていく。併せて、公的研究費の適正管理を含む大学運営の健全化を図るため、コンプライアンス研修等を強化推進する。

少子社会の到来、大学間競争の激化など厳しい経営環境に対応するため、第二次中期計画の完成と来年度以降における中長期的な経営基盤の強化を図っていく。

そのために教育設備等の整備・更新による教育環境向上のための基本金組入れを計画的に実施するとともに、遠隔教育システムを十分活用したテレビ会議の開催等、一層の効率化による経費削減に努める。

第3. 事業計画

1 学生の収容計画及び教職員の配置計画

(1) 学生の収容計画

平成30年度は、各大学・短期大学あわせて、学部生3,013人、大学院生302人（修士課程214人、博士後期課程78人、5年一貫制博士課程10人）、短大生51人、合計3,366人の収容学生を見込み、教育研究事業を実施する。

【看護学部・大学院・短期大学別収容計画】

(単位:人)

看護学部	平成30年度		平成29年度	
	定員数	学生数	定員数	学生数
北海道看護大学	400	446	400	434
秋田看護大学	400	441	400	443
日赤看護大学（下段 編入学生内数）	540	597	540	602
	20	15	20	21
豊田看護大学	480	541	480	553
広島看護大学（下段 編入学生内数）	500	556	505	562
	1	1	5	3
九州国際看護大学	400	432	400	439
学部生 小計（下段 編入学生内数）	2,720	3,013	2,725	3,033
	21	16	25	24

大学院 修士課程		平成30年度		平成29年度	
		定員数	学生数	定員数	学生数
北海道看護大学	看護学専攻	32	36	32	35
秋田看護大学	看護学専攻	24	16	24	19
日赤看護大学	看護学専攻	60	62	60	64
	国際保健助産学専攻	30	31	30	34
豊田看護大学	看護学専攻	20	23	20	27
広島看護大学	看護学専攻	20	20	20	20
九州国際看護大学	看護学専攻	20	26	20	26
大学院生（修士課程） 小計		206	214	206	225

大学院 博士後期課程		平成30年度		平成29年度	
		定員数	学生数	定員数	学生数
北海道看護大学	共同看護学専攻	6	9	4	5
秋田看護大学	共同看護学専攻	6	6	4	5
日赤看護大学	看護学専攻	21	41	18	44
豊田看護大学	共同看護学専攻	6	7	4	4
広島看護大学	共同看護学専攻	6	9	4	7
九州国際看護大学	共同看護学専攻	6	6	4	4
大学院生（博士後期課程） 小計		51	78	38	69

大学院 5年一貫制博士課程		平成30年度		平成29年度	
		定員数	学生数	定員数	学生数
日赤看護大学	共同災害看護学専攻	10	10	8	8
短期大学		平成30年度		平成29年度	
		定員数	学生数	定員数	学生数
秋田短期大学	介護福祉学科	80	51	100	50
收容学生・計		平成30年度		平成29年度	
		定員数	学生数	定員数	学生数
看護学部生		2,720	3,013	2,725	3,033
大学院生（修士課程）		206	214	206	225
大学院生（博士後期課程）		51	78	38	69
大学院生（5年一貫制博士課程）		10	10	8	8
短期大学生		80	51	100	50
合 計		3,067	3,366	3,077	3,385

【参考：大学別收容計画】

(単位：人)

区 分		平成30年度		平成29年度	
		定員数	学生数	定員数	学生数
北 看 大	看護学部生	400	446	400	434
	大学院生（修士課程）看護学専攻	32	36	32	35
	（後期3年博士課程）共同看護学専攻	6	9	4	5
	大学院生小計	38	45	36	40
	学生数合計	438	491	436	474
秋 看 大 ・ 秋 短 大	看護学部生	400	441	400	443
	大学院生（修士課程）看護学専攻	24	16	24	19
	（後期3年博士課程）共同看護学専攻	6	6	4	5
	大学院生小計	30	22	28	24
	学生数合計	430	463	428	467
介護福祉学科生合計		80	51	100	50
日 看 大	看護学部生	540	597	540	602
	大学院生（修士課程）看護学・国際保健助産学専攻計	90	93	90	98
	（博士後期課程）看護学専攻	21	41	18	44
	（5年一貫制博士課程）共同災害看護学専攻	10	10	8	8
	大学院生小計	121	144	116	150
学生数合計	661	741	656	752	
豊 看 大	看護学部生	480	541	480	553
	大学院生（修士課程）看護学専攻	20	23	20	27
	（後期3年博士課程）共同看護学専攻	6	7	4	4
	大学院生小計	26	30	24	31
学生数合計	506	571	504	584	
広 看 大	看護学部生	500	556	505	562
	大学院生（修士課程）看護学専攻	20	20	20	20
	（後期3年博士課程）共同看護学専攻	6	9	4	7
	大学院生小計	26	29	24	27
学生数合計	526	585	529	589	
九 看 大	看護学部生	400	432	400	439
	大学院生（修士課程）看護学専攻	20	26	20	26
	（後期3年博士課程）共同看護学専攻	6	6	4	4
	大学院生小計	26	32	24	30
学生数合計	426	464	424	469	

(2) 教職員の配置計画

平成 30 年度は、各大学・短期大学に専任の教育職員 314 人、事務職員 118 人を配置して教育研究事業を実施する。

なお、優秀な教員の確保について、人事交流を含む学園全体での課題と情報の共有を推進するとともに、人材の流出に対する対策についても学園全体で対応できる仕組み作りについて検討を行う。

(単位：人)

	専任の教育職						専任の事務職
	教授	准教授	講師	助教	助手	計	
北海道看護大学	14	10	7	6	2	39	17
秋田看護大学	15	12	11	9	2	49	20
日赤看護大学	21	15	14	17	1	68	23
豊田看護大学	15	8	10	15	3	51	19
広島看護大学	14	7	9	17	4	51	19
九州国際看護大学	17	8	0	15	7	47	20
計	96	60	51	79	19	305	118
秋田短期大学	4	2	3	0	0	9	0
合計	100	62	54	79	19	314	118

2 教育の充実・強化

(1) 赤十字の特色ある教育の推進と人材育成

① 赤十字の理念に基づく教育の充実

赤十字の看護大学として赤十字教育・災害看護教育等の質を向上し、赤十字概論や国際人道法等赤十字活動に関連する分野の教育を強化する。

災害救護訓練、救急法等の講習、ボランティア活動を通じて、災害時における救護・看護活動を学ぶだけでなく、日本赤十字社の救護活動と同様に防災・減災教育を含めた全災害サイクルにおける災害看護教育の充実に努める。

一方、国内外で活躍する人々の講演や交流を通じ赤十字活動の意義等について学生の理解を深める教育を展開する。海外の大学等との交流も促進し、国際シンポジウムの開催や海外研修生の派遣、受入を促進し、異文化交流を通じた国際的感覚を身につけた豊かな人間性を養う教育を進める。

また、日本赤十字社の看護師等が、赤十字の看護大学の学生として遠隔教育システムを利用し日本赤十字社の施設において学べる環境の構築に向け、検討を推進する。

【赤十字関連教育の実施予定授業】

	内 容
北看大	<p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(新カリキュラム) 1～3年次「赤十字のしくみ」「赤十字のこころ」(必修)で赤十字の歴史・理念・活動を理解し、赤十字の理念である人道の実現のために、日常的な事柄を洞察して赤十字の一員としての誇りと自覚を培う。 ・「赤十字救急法」「災害看護論」「赤十字とボランティア活動」(必修)、「ボランティア実習」(選択)で救急法、災害の場や被災者に必要とされる医療や看護の専門的知識及び技術の必要性の理解、ボランティア活動を学び、実践する。 <p>【大学院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「災害看護学領域」では国内外を問わず災害に対する知識を深め、災害が人々の健康や生活に与える影響と被災者の健康問題や生活ニーズに関わる看護職者の役割を探究する。
秋看大 秋短大	<p>【大学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム改定を行い、学校行事であった救護訓練を「災害看護学Ⅰ・Ⅱ」に単位化する。 ・赤十字救急法を選択科目から必修科目とし1年次に配置する。 ・「赤十字ボランティア演習」科目を設置する。 <p>【短大】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度選択科目の「救命救急活動論」を必修に、幼児安全法と赤十字健康生活支援講習を選択必修に変更し、赤十字科目の履修機会を増やすカリキュラムとする。
日看大	<p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年次に「赤十字概論」(必修)で人道の概念を把握するとともに、「国際関係論」(選択)で、国際情勢の基本知識を習得する。 ・3年次対象に「赤十字国際活動論」(選択)で、現在の国際社会において赤十字が行う国際活動の重要性とその意義を理解する。 ・学部3・4年次対象に隔年開講の「赤十字国際活動論演習」において赤十字発祥の地ソルフェリーノやジュネーブの赤十字国際委員会等を訪問し、赤十字の歴史と活動等について理解を深める。 ・学部1年次「災害看護論Ⅰ」(必修)で、救護活動の全体像から災害看護の役割を理解し、将来、災害救護活動の推進者として活躍できるよう基礎的能力を養う。 ・学部2年次「災害看護活動論Ⅰ」(選択)、「災害看護活動論Ⅱ」(選択)で、災害看護の基礎的知識や災害発生時、災害中長期における対応をシミュレーションや演習を通して学ぶ。 ・学部3年次「災害看護活動論Ⅲ」(選択)で、被災者の生活と健康についてのアセスメント方法、さらに赤十字健康生活支援講習を通して、ケア方法などを学ぶ。課外授業希望者には、被災者の支援活動を体験学習する。 ・学部4年生「災害看護論Ⅱ」(選択必修)で、災害時要援護者の理解とともに、地域社会における防災ネットワークの重要性とその構築・活用方法について学ぶ。

日看大	<p>【大学院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修士課程「赤十字概論Ⅱ（国際人道法含）」（選択）で、国際人道法上の権利と義務、国際的な救護活動の最低基準等を検討し、赤十字事業を理解する。 ・「国際看護学特講Ⅰ」（選択）で、国際赤十字等が実施する国際的人道・救助救援活動等を理解する。 ・修士課程「災害看護学」分野で、災害が健康や生活に与える影響、被災者の健康問題やこころの問題等の理解等の探究を行い、将来災害現場でリーダーとして活動できる基盤を習得する。 ・博士課程共同災害看護学専攻は、開設5年目の完成年度を迎え、本学担当開講科目は「看護研究方法論Ⅱ」「災害医療学」「災害看護活動論Ⅱ」「災害看護グローバルリーダー演習」「インディペンデントスタディ（演習）E」「実践課題レポート」「災害看護グローバルコーディネーション論」「災害国際活動論」「災害看護学実習Ⅱ」「インディペンデントスタディ（実習）E」となり、修了に向けて博士論文の指導・審査を行う。
豊看大	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次導入教育科目「看護ふれあいセミナー」では、愛知県犬山市の「明治村」内にある日本赤十字社中央病院（現日本赤十字社医療センター）の見学を通して、赤十字の大学で看護学を学ぶ意義を考える。 ・「赤十字と活動」「赤十字災害看護学」では、赤十字の理念や活動を学ぶとともに、国際救援活動参加者などの講演会を開催し、赤十字の活動をイメージできるようにする。 ・赤十字、災害科目の中に日本赤十字社の行う講習活動とリンクさせた「健康生活支援演習」「幼児安全演習」（いずれも選択科目）を置き、実践力強化のための演習機会を増やす。 ・「国際保健医療支援実習」を開講し、タイ王国及びミャンマーにおいて赤十字社、JICAの見学及び赤十字が活動する地域での見学実習を行い、学びを深める。 ・「災害救護演習」では、県内各赤十字施設の合同訓練に参加することを通し、災害発生時に円滑な救護活動を行うための必要な知識と技術を習得し実践力を強化するとともに、救護員としての高揚を図る。
広看大	<ul style="list-style-type: none"> ・赤十字の理念及び活動内容を看護と結び付けながら学修する必修科目を開講 [継続] 1年次：赤十字の歩みと活動Ⅰ、2年次：赤十字救護・援助方法（救急法）、4年次：赤十字の歩みと活動Ⅱ、災害看護学Ⅰ ・赤十字の理念をもとに国際看護や災害看護を学ぶ選択科目を開講 3年次：国際社会と保健活動 4年次：災害看護学Ⅱ、国際看護学 [継続]、修士課程：赤十字と災害看護学 [新規] ・赤十字関連の医療施設の臨床看護師から看護技術の指導を受けられる必修科目を開講 [継続] 赤十字看護教育サポーター制度＝RECNE を活用し、臨床看護師から看護技術習得のサポートや評価を受けられる内容を必修科目に取入れる。 1年次：基礎看護学Ⅰ、基礎看護学Ⅱ 2年次：看護援助演習Ⅱ

<p>広看大</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国際医療救援拠点病院や海外での災害救援等で活躍する看護師を育成するためのコースを継続して開設 [継続] 語学力を伸ばす講義及び海外研修や国際医療救援拠点病院へ訪問する研修を実施。また、学内で災害発生を想定した訓練を演習として実施。海外研修については、コース履修者以外からも参加申し込みを受け付け、看護師教育課程のみの学生も研修に参加可能とする。 1年次：異文化コミュニケーションⅠ，異文化コミュニケーションⅡ，異文化コミュニケーションⅥ，国際医療活動論 2年次：異文化コミュニケーションⅢ，異文化コミュニケーションⅣ，ヒューマン・ケアリング特論 3年次：国際社会と保健活動，看護英語，国際看護学演習Ⅰ（ジュネーブ） 4年次：災害看護学Ⅱ，国際看護学
<p>九看大</p>	<p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リベラルアーツ専門基礎科目として、1年次に「赤十字概論」と「赤十字救護・援助方法」を、3年次に専門の必修科目として「災害看護」を日本赤十字福岡県支部との共催で開講する。 ・選択科目として1年次に「赤十字活動Ⅰ」、3年次には「赤十字活動Ⅱ」を開講し、赤十字の成り立ちや活動及び赤十字を基盤とした看護を学ぶ。 <p>【大学院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専攻領域必修科目として「国際保健特論Ⅰ」「国際保健特論Ⅱ」、共通必修科目として「グローバルヘルス」を開講し、各科目において、赤十字の活動や災害看護についても探究できるように授業運営を行っていく。

【国際交流、体験教育、交換留学生の実施予定相手国】

	実施予定相手国
北看大	モンゴル、アメリカ
秋看大 秋短大	イタリア、スイス、台湾、ラオス、アメリカ
日看大	オーストラリア、スウェーデン、スコットランド、カンボジア、スイス
豊看大	イギリス、タイ
広看大	スイス・イタリア、フィリピン、イギリス
九看大	インドネシア、ベトナム、台湾、スイス

② 保健・医療・福祉の現場を支える人材の育成

高度医療や地域包括ケア等時代の変化に対応した教育内容の充実に努め、カリキュラムの見直し等を適宜実施していく。

また、国の老人医療施策の中心となってきた在宅医療や老人介護施設等地域社会を構成する拠点で活躍する看護師、保健師、介護福祉士等の人材養成のニーズも受け止め、幅広い知識と能力、高度な判断力を身につける人材を育成する。

③ 内外の赤十字活動を担う人材の育成

地元自治体、日本赤十字社の支部・施設等が企画する災害救護訓練、地域防災訓練等に積極的に参加し、行政との連携・協働、地域住民と一緒に防災・減災を目指した地域防災活動に取り組むとともに、医師や看護職者が他職種と連携し傷病者の救護に当たる現場において、災害看護のあるべき姿を学ぶ。

また、国際救護要員養成研修、災害医療等の学会や赤十字の国際活動、セミナー等へ教職員のみならず学生も主体的に参加する環境整備に努め、国内外を問わずグローバルに活動できる人材を育成する。

【災害救護訓練への参加計画】

	名 称
北看大	日本赤十字社第1ブロック赤十字災害救護訓練
秋看大 秋短大	日本赤十字秋田看護大学・短期大学災害救護訓練
日看大	大森赤十字病院防災訓練、武蔵野市総合防災訓練、牧田総合病院災害救護訓練、大田区緊急医療救護所研修会、渋谷氷川地区総合防災訓練
豊看大	日本赤十字社愛知県支部救護員研修、赤十字防災ボランティア養成研修、名古屋第一赤十字病院大規模災害訓練
広看大	日本赤十字社広島県支部管内災害救護訓練
九看大	日本赤十字社九州八県支部合同災害救護訓練、日本赤十字社福岡県支部管内災害救護訓練、日本赤十字社福岡県支部救護班主事対象訓練

④ 赤十字ネットワークとの連携

赤十字の大学として、日本赤十字社の本社・支部・施設との事業協力や会議等への参加により、赤十字運動の担い手の養成を通じて、赤十字の関係機関との連携を強化する。

【共催及び参加協力イベント等】

	名 称
北看大	赤十字フェスタ、赤十字キッズランド
秋看大 秋短大	赤十字キッズタウン
日看大	全国赤十字大会、東京都赤十字大会
広看大	広島フラワーフェスティバル、赤十字フェスティバル
九看大	H. E. L. P. in JAPAN 2018、日赤九州八県支部赤十字大会、福岡県日赤紺綬会総会

【赤十字救急法講習会への協力】

	名 称
北看大	救急法救急員養成講習
秋看大 秋短大	救急法救急員養成講習、幼児安全法支援員養成講習、健康生活支援講習支援員養成講習
日看大	救急法救急員養成講習、健康生活支援講習支援員養成講習
豊看大	救急法基礎講習、救急法救急員養成講習、幼児安全法支援員養成講習、健康生活支援講習支援員養成講習
広看大	救急法基礎講習、救急法救急員養成講習、阿品地区救急蘇生法講習会
九看大	学部科目「赤十字救助・援助法」、救急法短期講習、救急法基礎講習、救急法救急員養成講習

【赤十字支部・施設との会議等】

	名 称
北看大	赤十字病院北海道ブロック事務部長会議、日本赤十字社北海道支部医療施設・教育施設 看護部長・副校長等意見交換会
秋看大 秋短大	東北ブロック各県支部・病院連絡協議会、秋田県赤十字支部施設広報委員会、秋田県赤十字支部施設業務連絡会議、秋田県赤十字支部施設人事担当課長会議
日看大	支部長推薦入学者選抜試験担当課長説明会、ケアリング・フロンティア広尾、実習連絡会議（武蔵野赤十字病院・日本赤十字社医療センター・大森赤十字病院、横浜市立みなと赤十字病院）
豊看大	中部ブロック看護部長会議、中部ブロック病院長会議、日本赤十字社第3ブロック支部事務局長会議
広看大	実習連絡会議（広島赤十字・原爆病院）、中国四国ブロック各県支部・病院連絡協議会
九看大	赤十字病院看護部長との意見交換会、九州各県支部大学担当者連絡会議

(2) 質の高い教育の実践

① 学部・学科の教育課程の充実・改善

学部・学科教育においては、学生の能力に応じたカリキュラム編成や実習体制の見直しを進め、教育課程の改善や教育方法の充実を行う。併せて、シラバスに学習到達目標、学習課題等を明示することにより、学生が自ら主体的に学ぶ力を引出していく。

また、全大学で導入済みのGPAにより適切な学修指導に活用するなど、様々な工夫を凝らした学部・学科教育を推進する。

② 大学院教育の充実、専門看護師の養成

大学院修士課程では、教育・研究者としての基礎的な能力を育成するとともに、より質の高い看護を提供するための実践、教育、研究の場におけるリーダー

一となる専門看護師教育課程の充実に努める。

日本赤十字看護大学においては高知県立、兵庫県立、東京医科歯科、千葉の4大学とともに平成26年度に開講した博士課程共同災害看護学専攻（DNGL）の完成年次を迎えることから優秀な修了者の輩出を期待し、他5大学においては、平成28年度より開設した博士課程共同看護学専攻の一層の充実に努める。

【修士課程における専門看護師教育課程】

	教育課程の名称
北看大	がん、慢性、精神
秋看大	がん
日看大	がん、小児、慢性、クリティカルケア、精神、老年、災害、在宅
豊看大	小児、精神、母性
広看大	がん、小児、精神、災害
九看大	クリティカルケア、在宅

③ 認定看護師の養成

質の高い看護サービスの提供を求める社会のニーズに対応し、熟練した看護技術と知識を備えた認定看護師教育課程を引続き開講する。

しかしながら、本課程は認定機関である公益社団法人日本看護協会が、制度の再構築を検討中であることも踏まえ、平成30年度においては広島看護大学の摂食・嚥下障害看護の1講座のみの開講となる。

【認定看護師教育課程】

(単位：人)

	教育課程の名称	受講生数
広看大	摂食・嚥下障害看護	30

④ 6大学の連携強化

赤十字の6看護大学が連携し、遠隔教育システム活用を促進して効果的な教育方法の開発を行う。併せて、大学間の単位互換実現に向けた検討を進める。

また、赤十字の6看護大学の学生間の一体感醸成を促進し、赤十字組織への帰属意識と赤十字運動参画への高揚のためにも学生間交流を一層活発にするため学生ネットワークを強化する。

【遠隔教育システムを活用した教育の促進】

	内 容
北看大	・共同看護学専攻（博士課程）において円滑な遠隔授業を行う環境の提供。 ・札幌サテライトにおいてシステムを活用した大学院生の履修指導及び授業の実施を推進する。
秋看大	・共同看護学専攻（博士課程）で活用するほか、修士課程や学部での活用について6大学での検討、また、2大学間等での活用も模索する。

日看大	<ul style="list-style-type: none"> ・博士課程共同災害看護学専攻(DNGL)において、高知県立大学、兵庫県立大学、東京医科歯科大学、千葉大学間での遠隔授業を継続する。 ・共同看護学専攻(博士課程)への協力として、教員が非常勤講師として担当する授業について継続する。
豊看大	<ul style="list-style-type: none"> ・共同看護学専攻(博士課程)においてシステムを活用する。 ・修士課程において、大学間の単位互換を含めてシステムを利用した授業の試行を計画する。
広看大	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院修士課程における今後の6大学単位互換制度実施に向けて、関係規程の改正、整備等を行う。 ・スマートビデオ会議システムを活用し、より遠隔授業の充実を図る。特に、日本赤十字広島看護大学に在籍しているが、遠隔地に在住している学生が、他の5大学のキャンパスを利用する場合は、円滑に情報共有を図り連携する。 ・修士課程の非常勤講師担当授業においてシステムを活用する。
九看大	<ul style="list-style-type: none"> ・共同看護学専攻(博士課程)においてシステムを活用するとともに、学部でのシステム活用の可能性を検討する。

3 優秀な学生の確保と学生支援

(1) 入学者選抜方法の検討

国が打出している大学教育改革、大学入学者選抜改革の内容を受け、平成27年度より「入試制度検討ワーキンググループ」を設置し、各大学の入試の現状を把握・検証し、各大学等が抱える諸課題に対する基本的な考え方を整理するとともに、入試改革の課題に沿って6大学の連携の可能性を検討してきた。

平成30年度は、平成29年度に文部科学省が提示した平成33年度入学生を対象とした大学入学者選抜に関する新たなルールを踏まえ、赤十字の看護師養成教育施設として質の高い志願者を安定的に確保するための入学者選抜方法について引き続き検討を行う。

特に、改正する赤十字特別推薦選抜(「旧支部長推薦入試」)制度の全学実行に向け大学、支部、施設が円滑に連携できるよう環境整備に努める。

(2) 学生への支援策の強化、推進

私学ゆえ学納金の経済的負担が優秀な学生確保の障害の一因でもあることから、その軽減を図るため、支部・赤十字病院と連携を取り、奨学金制度の充実・募集枠の拡大に理解と協力を求め、学生・保護者へ制度の利用を効果的に周知する。

加えて、教育研究経費の支出にあたり、高い社会性・共同参画意識及び自立した社会人としての基礎力を有する人材を育成するために、正課外教育の観点から、課外活動を含めて学生が充実したキャンパスライフを送ることができるよう、学生の学修意欲の向上に資する事業・項目を、従来にも増して優先的に拡充する。

また、国家試験の合格率は、大学に対する社会的評価の重要な基準の一つでもあることを再認識し、各校とも国家試験合格率100%を目指し様々な方法を工夫し学

生への学修支援を行っているが、特に基礎学力の不足する学生に対して、早期からきめ細やかな学習支援を行うなど更なる充実を図る。

【奨学金制度の拡充】

	内 容
北看大	<ul style="list-style-type: none"> ・道内赤十字病院と連携し、大学案内及びホームページへの掲載のみならず、進学相談、高校訪問等の機会を含め広く本奨学金制度の利点を周知する。 ・地方自治体奨学金制度の利点（返済免除、無利子）についても広報に努め、学資不足の学生に対する支援に努める。 ・卒業後の事も考慮し、必要以上の貸与を受けないように奨学金制度の適切な利用について学生への指導を強化する。
秋看大 秋短大	<ul style="list-style-type: none"> ・奨学金を希望する学生の条件に見合う内容を精査し、要望をできるだけかなえられるよう、学生相談窓口のサービス向上を図る。 ・奨学金制度について、学生のみではなく保護者の相談にも対応する。
日看大	<ul style="list-style-type: none"> ・日本赤十字社奨学金については各赤十字病院に看護学部生の奨学生採用について依頼、また専門看護師（CNS）を目指す修士課程の大学院生についても奨学生採用の依頼を行う。 ・学業継続困難者への支援として、日本学生支援機構奨学金緊急応急採用の周知、本学同窓会や日本赤十字社看護師同方会事務局に随時募集状況等の確認を行い、募集している場合は個別に学生に周知する。
豊看大	<ul style="list-style-type: none"> ・全国の赤十字病院の奨学金制度について広く在学生に周知し、学業継続困難者を支援する。 ・日本赤十字社愛知県支部特別奨学金制度を有効活用し、学業継続困難者への支援につなげる。
広看大	<ul style="list-style-type: none"> ・全国の赤十字支部・病院に対して奨学金制度のアンケートを実施し、最新の情報を学生へ周知するとともに、ブロック内の支部・病院・大学の協議会において奨学金制度の導入について引き続き依頼する。 ・奨学金制度について、新入生ガイダンスプログラムに組み込んで説明会を開催し、学生への周知とその適切な利用を指導する。 ・授業料の納入が困難な学生について、個々の経済状況に応じて分納・延滞を認める相談に応じ、奨学金制度の紹介を行う。
九看大	<ul style="list-style-type: none"> ・「給付型奨学金制度」の開始（平成 30 年度入学者）

【国家試験に向けた学生支援の強化】

	内 容
北看大	<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験合格率 100%を目指し、補講、模擬試験、国家試験の分析と対応及び教員による指導強化等の学習支援活動を継続して実施していく。 ・国家試験不合格者（既卒者）への支援を行い、合格を目指す。 ・Web 問題集の利用率の向上を図って学生の自主学習を促す。

秋看大 秋短大	<ul style="list-style-type: none"> ・大学では、4年次を担当するアドバイザーが中心となり、国家試験合格に向けて学生が主体的に学習するための指導及び支援をする。 ・短期大学では、教務委員会が中心となり、全教員と連携しながら、模擬試験、学習指導、情報提供等の学習支援を進めていく。
日看大	<ul style="list-style-type: none"> ・学生生活・就職支援委員会及び教務委員会に国家試験対策担当をおき、対策講座を希望する領域等について4年生にアンケートを実施し、国家試験対策講座の年間計画をたてる。 ・3年次に必修問題に重点をおいた模擬試験を実施し、国家試験に向けての意識づけを強める。また、1年次の医学系科目の成績下位者に対し、早期に学習支援を図っていく。 ・大学院看護学研究科国際保健助産学専攻では母性看護学教員が助産師国家試験対策の担当として、アチーブメント、模擬試験を実施する。また、模擬試験の結果に基づき個別指導を行う。
豊看大	<ul style="list-style-type: none"> ・新卒者の看護師・保健師国家試験の100%合格を目指す。 ・看護師・保健師国家試験不合格者（既卒者）への支援を行い、受験者の合格率向上を目指す。 ・成績不良者に対して基礎力を向上させる支援を早期から実施する。
広看大	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の苦手分野とする領域の調査を行い、弱点強化の手助けをする。 ・成績下位の学生や希望者を対象にした学習補助（集団学習会）を実施する。 ・保護者会から財政的支援を得て、4年生と3年生に看護師国家試験模擬試験を実施。結果返却後のチューター面接で激励、今後の勉強方法をアドバイスする。また、担当教員による分析を全教員が共有し、指導に生かす。 ・学生への動機付けとして東京アカデミー（業者）の講師を招き、3・4年生を対象にセミナーを開催する。また、学生の希望により同業者による受験対策講座を開き、学生の効率的な受験学習を支援する。 ・Web国試の効果的な利用を促進する。 ・毎年4月に実施する病院説明会時に、パネリストとして招待した卒業生から国家試験への取組みについての助言を聞く時間を設ける。
九看大	<ul style="list-style-type: none"> ・教務委員会に国家試験支援の役割を担う部会を設立し、体系的な国家試験対策及び支援を強化する。具体的には、学生で構成された国家試験対策委員の相談窓口としての役割、模擬試験の分析及び補講計画の立案等を行う。

4 研究の充実・強化

(1) 研究活動の充実・強化

重点的研究分野を明確化し、領域横断型のプロジェクト研究や社会のニーズに対応した研究を促進し、大学アーカイブズ・大学リポジトリの構築・運用により研究活動を公開する環境を整備する。

また、科研費、民間資金の募集情報の周知に努め、これら資金の獲得に向けた応募を教員へ奨励し、関連する研修等を充実させる。併せて学園研究助成金への積極的な応募を奨励し、資金の効果的配分活用の促進に努める。

私立大学等大学教育改革総合支援事業については、タイプ 1~4 までを視野に応募を積極的に行い、地域との包括連携協定に基づく活動の充実などを図る。

(2) 日本赤十字国際人道研究センター事業の充実・強化

平成 23 年度に日本赤十字社の研究機関として発足した日本赤十字国際人道研究センターは、本学園を通じた日本赤十字社の助成金により、赤十字事業等に関する調査研究等を実施し、一定の評価を得ている。

平成 30 年度においても、的確且つ柔軟な調査研究体制のもと日本赤十字社の看護に関する歴史的事業の調査等を中心として進め、併せて、広報活動を強化し、各大学のグループ力の活用と日本赤十字社の支部・施設等との協働により、日本赤十字社の学術的拠点としての事業を一層充実させる。

5 社会貢献の拡充・強化

(1) 地元自治体との連携・協力の促進

地元自治体と連携、協力のもと大学の教育研究機能を活かして、少子高齢化、地域医療、予防医学等の地域の課題解決に貢献していく。また、「知（地）の拠点整備事業」と連動した自治体との連携による教育・研究活動を推進する。

【主な連携・協力内容】

	内 容
北看大	<ul style="list-style-type: none">・広範囲な教育・研究面の向上を目的として、網走開発建設部、北見工業大学、東京農業大学と包括協定を締結・当大学及び北見市の教育の充実・発展を図ることを目的として、北見市教育委員会と連携協定を締結・活力のある個性豊かな地域社会の形成と発展及び人材育成を目的として、北見市と連携協定を締結
秋看大 秋短大	<ul style="list-style-type: none">・秋田大学が採択された平成 27 年度「知（地）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に協力大学として参加・本学が輩出してきた介護や看護人材の有効活用を目指すため、子育てや介護で離職中の介護職看護職を対象に、介護技術、看護技術について最新の情報を交えた技術教育を実施

日看大	<ul style="list-style-type: none"> ・渋谷区内関係団体を外部委員とする有識者懇談会の開催 ・渋谷区と地域課題解決のための連携協定（シブヤ・ソーシャル・アクション・パートナー協定）を締結 ・地域連携・フロンティアセンター武蔵野地域防災活動 ・「広尾地域防災プロジェクト 災害ワークショップ」の開催 ・福島県いわき市に避難している浪江町民の健康支援事業
豊看大	<ul style="list-style-type: none"> ・豊田市と更新締結する「地域包括連携協定」に基づき連携事業を展開（地域活動について、育児支援について） ・豊根村教育委員会と共同で地域住民に対する健康教育等の生涯学習講座の実施 ・高齢者を対象に摂食嚥下機能の維持を目的とした健康体操の実施
広看大	<ul style="list-style-type: none"> ・包括的連携・協力に関する協定を結んでいる廿日市市と連携し「大学の教育・研究機能を活かして、地域の住民力・看護力を高める共育」の推進を継続 ・大規模災害発生時の物資基地機能等について広島県・廿日市市との協定を締結
九看大	<ul style="list-style-type: none"> ・宗像市スポーツ推進事業、地域活性化事業等への協力 ・宗像市市民対象出前講座（ルックルック講座）への協力 ・「むなかた大学のまち協議会」（宗像市、福岡教育大学、東海大学）事業の継続参加（公開講座開催等） ・宗像市地域清掃活動「釣川クリーン作戦」への参加 ・宗像市教育委員会中学生職場体験「ワクワク WORK」の受入 ・九州地域大学教育改善 FD・SD ネットワーク（Q-Links）の参加と情報共有

（2）地域住民への生涯学習の場の提供

医療・福祉関係者のみならず地域住民等を対象にした公開講座やセミナー、シンポジウム、講演会などを積極的に開催し、地域社会の生涯学習の場を提供する。

さらに、地域住民への施設開放を進め、地域住民との交流の機会作りに努める。

【主な開催内容】

	内 容
北看大	・公開講座（3回程度）、講演会を開催予定
秋看大 秋短大	<ul style="list-style-type: none"> ・公開講座（健康管理、介護予防、在宅看護、公衆衛生、食・栄養学等） ・公開講座 3.11 から未来へ心に刻むプロジェクトとして「防災・減災」 ・講演会「赤十字・国際人道法教育フォーラム」
日看大	<ul style="list-style-type: none"> ・公開講座「学ぶ・楽しむー心豊かに健康を保つー（仮）」、「誰でも学べる地域セミナー」 ・シンポジウム「フロンティアセミナー」、「認定看護師のためのスキルアップセミナー」

豊看大	<ul style="list-style-type: none"> ・公開講座「健康についての講話、高齢者向け健康教育等」 ・シンポジウム「こころの健康づくりシンポジウム」
広看大	<ul style="list-style-type: none"> ・公開講座「中国新聞文化センター連携講座（4回）」、「フィジカルアセスメント研修会（4回）」、「認定看護師教育課程公開講座（4回）」他、計10講座
九看大	<ul style="list-style-type: none"> ・公開講座（2回）、シンポジウム（1回）開催予定

(3) 社会的活動の促進

教育機関の教員という専門分野の知見を活かし、看護系学会、大学基準協会、日本看護協会等の役員や委員として積極的に教員を派遣し、地域の大学コンソーシアム等が主催する関連講座等にも講師を派遣する。

【主な活動内容】

	内 容
北看大	<ul style="list-style-type: none"> ・地方自治体等からの各種諮問委員会等の委員の推薦に協力 ・出前講義を実施した社会的活動の促進
秋看大 秋短大	<ul style="list-style-type: none"> ・大学コンソーシアムあきたへの加盟、加盟大学との単位互換授業、FD/SD事業への参加 ・小・中・高校生及び一般企業等への出前講座の実施 ・学外の外部機関への委員・講師の輩出・派遣
日看大	<ul style="list-style-type: none"> ・福島県いわき市に避難する浪江町民の健康支援事業継続 ・広尾地域防災プロジェクトにおける災害ワークショップの開催 ・武蔵野地域防災活動の継続 ・地域連携・フロンティアセンターにおいて地域社会との連携への取組 ・看護系学会、大学基準協会、私立大学事務関係団体等に教職員の役員及び委員への推薦
豊看大	<ul style="list-style-type: none"> ・豊田市等への講師派遣、医療機関への講師派遣
広看大	<ul style="list-style-type: none"> ・進路選択への関わりとして、中学校、高校での出前授業の実施や本学キャンパスでの施設見学及び看護学に関する体験授業の実施 ・地域貢献活動として、地域団体が実施する公開講座や防災活動への講師（救急法指導員）派遣及び近隣公立学校の施設見学、職場体験学習等の積極的な受入 ・学会等での活動として、広島県看護協会をはじめ地域の看護事業への役員・委員の輩出と地域の医療施設における諮問委員の輩出や看護部研修会へ講師を派遣
九看大	<ul style="list-style-type: none"> ・地域防災力向上につながる官学連携研究実施 ・宗像市との連携研究事業の継続 ・地域医療施設の院内看護研究の支援 ・県・近隣市町の各種審議会委員の輩出 ・大学近隣企業と構成するリサーチパーク協議会主催アスティ祭における健康応援活動の実施

九看大	<ul style="list-style-type: none"> ・市及び各地域コミュニティ主催行事への参加 ・市内中学生の職場体験の受入 ・日本赤十字看護学会等の役員・委員就任 ・地域コミュニティからの教育講演等依頼への受諾 ・JICA との連携事業の継続参加
-----	--

6 業務運営の改善・推進

(1) 大学ガバナンスの強化

① 学長のリーダーシップの発揮

学校教育法改正の趣旨に沿って平成 26 年度に実施したガバナンスに関する規程の見直しに基づき、学長のリーダーシップのもと教職員が一体となって時代に即した迅速かつ適正な大学運営が実現できるよう大学のガバナンス強化を推進する。

② 監事機能の充実

日本赤十字学園の運営を行っていく上で、公共性及び運営の適正性を確保するため、監事機能を強化し業務運営の適正化を図る必要があることから、引き続き監事による大学実情調査やきめ細かい業務指導を得る機会を設け、その徹底を図る。

③ 法人・大学の諸規程の見直し

変化する社会情勢や高等教育機関の特質を踏まえ、法人の諸規程の見直しを適宜行い、計画的に諸規程集を改訂する。

また、各大学の諸規程・内部規則についても法人の準則等に照らし必要な改正を進める。

④ 効率的な大学運営の強化

6 大学を擁する本学園のスケールメリットを生かし、遠隔教育システムを活用したテレビ会議等を積極的に活用し、効率的な大学運営に取り組む。

また、同様に各大学の資機材等の共同調達、共通事務の集約など効率的な大学運営を視野に様々な可能性を検討する。

⑤ コンプライアンスの強化

大学運営の透明性の確保や説明責任という社会的要請に対応した業務運営が求められる現状を認識し、大学諸規程の見直しとコンプライアンスの徹底を図り、教育活動においても透明性と説明責任を確保した運営を促進する。

また、研究活動においても「公的研究費の適正な運営・管理に関する規程」及び「研究活動不正行為防止規程」等の外部資金に関する規程等の遵守並びに適正な運用を確保するため、教員に対する説明会を実施し、不正発生防止環境整備の強化を図る。

⑥ 広報活動の充実・強化

日常の大学の動きを伝えるホームページのコンテンツの一層の充実を図るとともに、若者、学生向けの身近な情報ツールの積極的導入を図り、迅速かつ的確な情報提供と更新体制を構築する。

また、オープンキャンパスや学園祭を通じた情報提供はもとより、日本赤十字社の関連学会（医学会総会、看護学会等）へのブース出展や新聞、雑誌、大学案内等を活用した広報など、高校生をはじめ、保護者会、同窓会、赤十字関係施設などあらゆるステークホルダーを意識した多角的な広報を展開する。

(2) 財政基盤の確立

① 経営意識の醸成

大学においては、大学の幹部である経営会議構成員が経営意識を共有し、各種会議、研修等を通じて、教職員全員が自学の経営状況について認識を深め、大学一体となった大学運営に取り組む機運を醸成する。

特に、経営会議において経営状況の検証、分析を行い、コスト削減の意識をもった具体的な施策に基づく経費節減に努める。

また、施設設備に係る改修、整備、更新にあたっては、緊急的対応のものを除き、中長期的な視点に立って計画的に進める。

② 経営基盤の確立

教育設備の整備と充実、安定した経営基盤の確立を視野に、6大学が基本金の組入れ計画を引き続き着実に実施し、教育環境整備のための安定的な財源確保を図る。また、管理的経費を抑制し、各大学の業務の合理化・効率化に取り組むとともに、中長期的な大学運営に必要な施設基盤・教育研究環境を強化するために、着実な施設設備計画を進める。

③ 教育研究向上のための財源確保

私立大学等の経常費補助金の一般補助、特別補助が漸減傾向にある中、私立大学等改革総合支援事業等の補助金等の確保に努める。併せて、科学研究費助成費等の外部資金の積極的な獲得に向け、教職員へ積極的に働きかける。

また、恒常的な寄付金等確保のための方策について、早期に実行できるよう具体的な検討を進める。

(3) 人材の確保と育成

① 人事交流等の促進

大学職員の能力や士気の向上、大学の活性化を図るために、大学組織外の日赤本社・支部・施設を中心とした関係機関との連携を図り、開かれた人事交流を促進する。

また、学園本部や6大学間の教職員の人事交流も検討しながら、6大学の連携を強化する一環として、授業等における教職員の相互活用を進める。

② 教職員研修の充実・強化

引続き、FD/SD委員会を中心に教員研修の充実強化を図り、教員に対し教育研究活動のため学術集会等への積極的参加の為の環境整備を促し、教育の質保証・向上に努める。

併せて、職員に対しても事務能力の向上のための研修会をはじめ私立大学協会、自治体等が主催する研修会等へ積極的に参加できる体制作りに努め、これにより業務に必要とするスキルアップを図る。

③ 教職員モラル・人権意識の向上

日頃から教職員としてのモラルや人権意識の向上、ハラスメントの防止など良識ある言動を取ることはもとより、モラルや人権への配慮に関する指導方法等についての取組みを徹底する。

また、学生のみならず教職員の行う SNS 等、いわゆる電子媒体を使用した情報発信のあり方に配慮を求め、教職員、学生間のコミュニケーションにおける人権意識を高めた良好な人間関係の構築に努める。

(4) 危機管理体制の構築

① 危機管理と安全管理

学内における事故や犯罪の発生を未然に防止し、学生・教職員が安全に学校生活を送れるよう危機管理と安全管理の体制を確立するとともに、大規模災害発災時における大学としての行動計画等をもとに、各校の災害対策マニュアルへの記載及び適宜改訂を行う。

また、教職員・学生参加型の災害救護訓練等を実施し、災害への意識を高めるとともに緊急連絡体制の検証と確認を徹底する。

併せて、情報セキュリティ対策にも取組み、学園全体の情報システムのあり方の検討を行い、サイバー攻撃などによる情報漏えい等の防止に努めることとする。

② 環境意識の向上とエコ対策

教職員、学生に情報発信を行い、クールビズ、ウォームビズの実施等の省エネ対策に努め、引き続き環境問題をはじめとする省エネ意識の涵養を図る。また、省エネタイプの照明器具や空調機器等の設備の導入など、様々な工夫により一層のエコロジー対策の徹底を図る。

(5) 質保証システムの構築

教育の質の確保のための PDCA サイクルを確立するとともに、毎年自己点検評価を実施し、ホームページ等において財務状況や自己点検評価内容等の教育情報・財務情報等を公開し、評価結果の共有と課題の洗い出し、またその改善に取り組む。

(6) 校友ネットワークの強化

大学と卒業生、また卒業生相互の関係は大学にとってゆるぎない大きな財産であることから、卒業生の結束力の強化と人的資源の交流・活用を進めて、同窓会組織の強化を図る。

また、ホームページ等を活用し、同窓会員への情報提供を定期的に行い、同窓会組織の強化を図る。

さらに、一般財団法人日本赤十字社看護師同方会や保護者で組織する保護者会等とも連携を図ることなどにより、組織の強化を図る。

(7) 日本赤十字看護大学さいたま看護学部の設置準備の推進

日本赤十字社からの要請により開設準備を進めている「日本赤十字看護大学さいたま看護学部」については、特色ある教育が展開できるよう教員確保とカリキュラムの構築を進め、平成31年4月の開学に向けて、赤十字特別推薦選抜方法の有効な活用を関係者と協議しながら、優秀な学生確保に努力する。

(8) 大学新設構想の検討

平成25年3月に策定された「日本赤十字社看護基礎教育体制の再構築検討会報告書」で示された日赤の看護専門学校のあり方の方向性に基づき、看護専門学校の大学キャンパス化等について、関西地域における大学設立構想を含め、その課題等について引き続き検討を行う。



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

学校法人
日本赤十字学園

Ⅱ 収支予算

第1． 予算編成の基本方針

この予算は、各大学を取り巻く厳しい経営環境を踏まえ、事業計画に基づき、平成30年度における法人本部及び6看護大学・1短期大学の収入・支出の見積りを整理計上したものである。

1． 予算編成の方針

大学経営環境は、18歳人口の減少等の影響もあり、その中でも看護系大学は、大学・学部の新設が相次ぎ、学生確保面での競合が一層激しくなっている。

さらに、大学の経営状況（分析と課題）や日本赤十字学園中期計画の達成状況、平成30年度から平成34年度までの5か年における固定資産整備計画を踏まえ、中・長期的な収支の均衡を目指した収支予算案の策定が求められている。

これらを踏まえ、平成30年度においては、各大学から提出された事業計画等をもとに、以下の内容を基調とした学園全体の事業計画及び収支予算案を作成した。

(1) 特色ある大学作りの推進

各大学における質の高い教育研究の実施に引き続き取組みつつ、赤十字看護大学の最大の特色である赤十字の理念に基づく看護教育と赤十字事業を支える人材の育成に努め、赤十字活動で活躍する看護師の養成を目指した赤十字教育、災害看護教育、国際保健医療教育の更なる充実を図り、学部及び大学院の教育内容の一層の質向上と特色発揮に努めていく。

また、平成24年度から学園全体の横断的な制度として導入した第3号基本金を活用した大規模災害に被災した学生に対する給付制奨学金制度等学生への支援を継続していく。

なお、複数大学を持つ強みを生かし、単位互換や入試に関する6大学連携等の検討を継続して進めていく。

(2) 計画性を持った施設設備の整備

各大学とも開学後 10 年以上が経過し、現在の施設機能を維持するための大規模修繕が徐々に必要となっているほか、情報技術の進展に合わせ、情報システムの更新などが必要となっている。現下の社会経済情勢が厳しい中で、開学時における日本赤十字社からの多大な支援は期待できないことから、自己資金によらざるを得ない厳しい現状認識に立ち、固定資産整備計画に基づき、計画的な整備を行う。

また、上記財源の一部として、教育に関する施設設備等の老朽化に備え、平成 26 年度から教育活動及び環境の維持向上に関する基本金制度を設立し、5 か年にわたり計画して組入れを行い、平成 30 年度が組入れの最終年度となる。

固定資産の整備にあたっては、一般競争入札制度の活用等によりコスト削減を徹底することとする。

(3) 第二次中期計画に沿った事業展開

法人本部及び各看護大学・短期大学では、遠隔教育システムを活用した単位互換等事業の実施計画を織り込んだ第二次中期計画(5 か年)を事業運営の基本におき、更なる教育研究事業の進歩・発展に取組んだ事業運営を行う。

第2. 予算の概要

(1) 資金収支予算

資金収支は、単年度における諸活動に対応するすべての資金の動きを記録することによって、当該年度の収入と支出の内容を明らかにし、支払資金（現金・預貯金）のてん末を表すものである。

平成30年度の資金収支予算では、資金収入及び資金支出ともに前年度に比べ1,050,271千円減の13,421,628千円を計上している。そのなかで、翌年度繰越支払資金は3,076,617千円で、前年度繰越支払資金5,146,199千円との差額は2,069,582千円の減となり支払資金の大幅な減少が見込まれる。

これは、さいたま看護学部設置に伴う建物に関する施設関係支出等を計上したことが大きな要因である。

① 資金収入の部

(単位：千円)

科目	平成30年度	平成29年度	差異
学生生徒等納付金、手数料収入	5,465,957	5,438,285	27,672
寄付金収入、補助金収入	994,397	1,488,371	△ 493,974
資産売却収入、付随事業・収益事業収入	58,823	76,165	△ 17,342
受取利息・配当金収入、雑収入	156,083	160,995	△ 4,912
借入金等収入、前受金収入、その他の収入	2,213,739	1,823,832	389,907
資金収入調整	△ 613,570	△ 653,504	39,934
前年度繰越支払資金	5,146,199	6,137,755	△ 991,556
資金収入の部合計	13,421,628	14,471,899	△ 1,050,271

② 資金支出の部

(単位：千円)

科目	平成30年度	平成29年度	差異
人件費支出	4,090,848	4,094,699	△ 3,851
教育研究経費支出	1,528,716	1,495,729	32,987
管理経費支出	336,768	397,052	△ 60,284
借入金等利息支出、借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出、設備関係支出	2,394,580	956,289	1,438,291
資産運用支出	851,867	1,215,461	△ 363,594
その他の支出	1,508,701	1,496,194	12,507
予備費	3,200	4,100	△ 900
資金支出調整勘定	△ 369,669	△ 333,824	△ 35,845
翌年度繰越支払資金	3,076,617	5,146,199	△ 2,069,582
資金支出の部合計	13,421,628	14,471,899	△ 1,050,271

(2) 事業活動収支予算

事業活動収支は、単年度の事業活動における収支内容と均衡状態を明確にし、経営状態を表すもので、法人に帰属する借入金等の資本的収入に充てる額と固定資産等の資本的支出に充てる額を除いた支出を計上するものである。

(単位：千円)

		科 目	平成30年度	平成29年度	差異
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金、手数料	5,465,957	5,438,285	27,672
		寄付金、経常費等補助金	991,559	988,549	3,010
		付随事業収入、雑収入	109,572	129,223	△ 19,651
		教育活動収入計	6,567,088	6,556,057	11,031
	事業活動支出の部	人件費	4,249,468	4,243,242	6,226
		教育研究経費	2,283,626	2,225,075	58,551
		管理経費、徴収不能額等	369,389	428,076	△ 58,687
		教育活動支出計	6,902,483	6,896,393	6,090
教育活動収支差額		△ 335,395	△ 340,336	4,941	
教育活動外収支	収入の活動の部	受取利息・配当金、その他の教育活動外収入	104,334	106,641	△ 2,307
		教育活動外収入計	104,334	106,641	△ 2,307
	支出の活動の部	借入金等利息、その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0
	教育活動外収支差額		104,334	106,641	△ 2,307
経常収支差額		△ 231,061	△ 233,695	2,634	
特別収支	収入の活動の部	資産売却差額、その他の特別収入	5,009	501,146	△ 496,137
		特別収入計	5,009	501,146	△ 496,137
	支出の活動の部	資産処分差額、その他の特別支出	400	420	△ 20
		特別支出計	400	420	△ 20
	特別収支差額		4,609	500,726	△ 496,117
予備費		3,200	4,100	△ 900	
基本金組入前当年度収支差額		△ 229,652	262,931	△ 492,583	
基本金組入額合計		△ 1,233,452	△ 626,669	△ 606,783	
当年度収支差額		△ 1,463,104	△ 363,738	△ 1,099,366	
基本金取崩額		0	0	0	
(参考)					
事業活動収入計		6,676,431	7,163,844	△ 487,413	
事業活動支出計		6,906,083	6,900,913	5,170	

① 事業活動収入

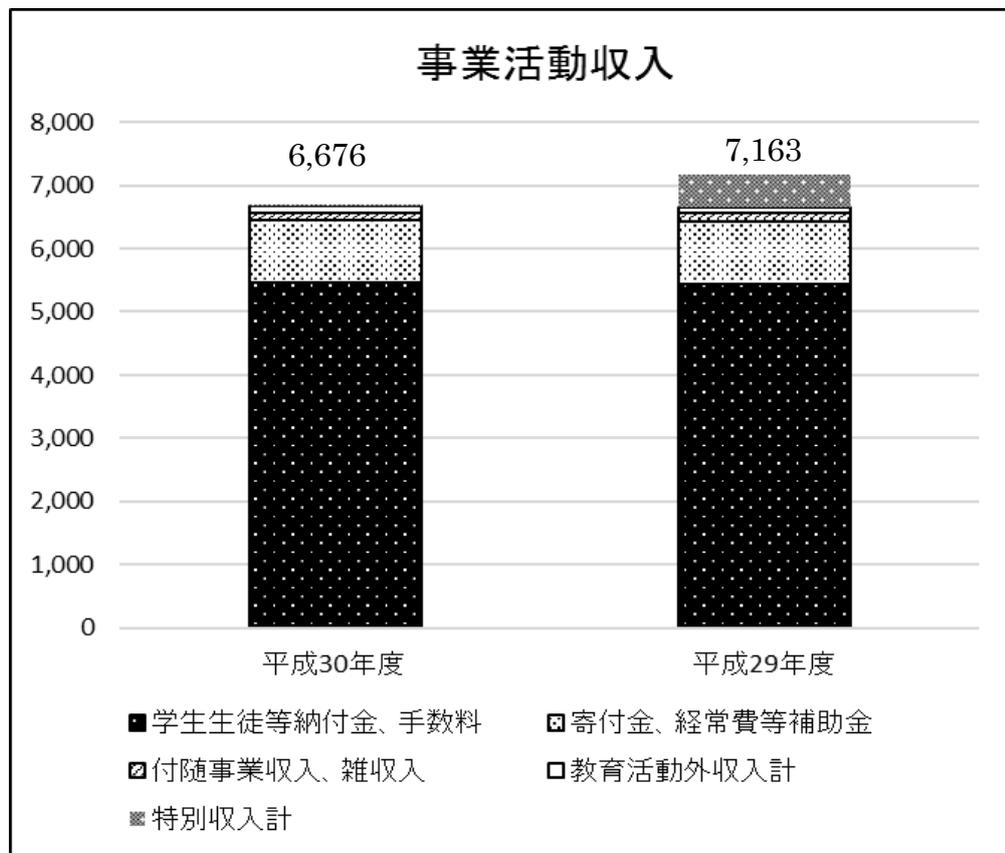
平成 30 年度の事業活動収支予算の事業活動収入では、学生生徒等納付金、手数料は前年度に比べ 27,672 千円増加の 5,465,957 千円を計上しているが、これは豊田看護大学における留年者減少等による収入減を見込んだ一方、5 大学連携による「看護学研究科共同看護学専攻（後期 3 年博士課程）」の学年進行（3 年生）等による収入増によるものである。

また、秋田看護大学における県費補助金の減及び日本赤十字看護大学におけるリーディングプログラム補助金の減がある一方、豊田看護大学・広島看護大学両校における前年度実績等に基づく経常経費補助金の増等により、寄付金、経常費等補助金が前年度に比べ 3,010 千円増加している。

なお、付随事業収入、雑収入は、前年度より 19,651 千円減の 109,572 千円を計上しているが、これは九州国際看護大学における認定看護師養成教育課程休講によるところの影響が大きい。

これらに法人本部にて昨年度計上したさいたま看護学部設置に伴う寄付金等による特別収入の大幅減や低金利における受取利息・配当金減等を合わせた事業活動収入は、前年度に比べ 487,413 千円減少の 6,676,431 千円を計上している。

(単位：百万円)



② 事業活動支出

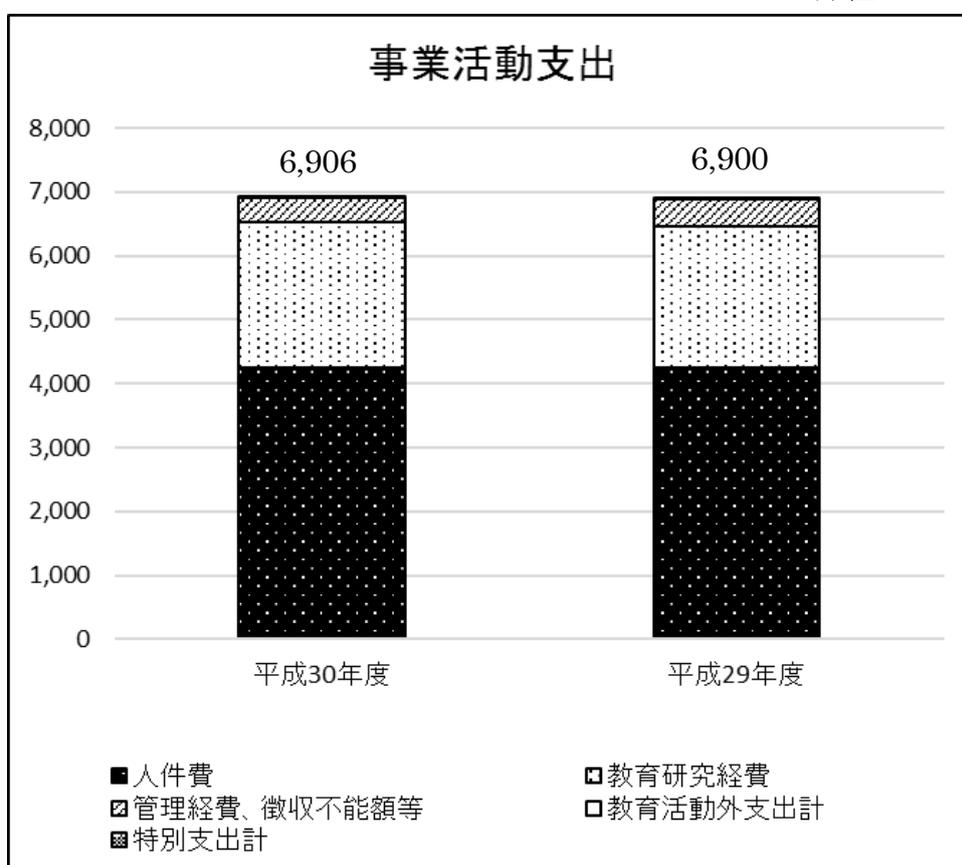
平成 30 年度の事業活動収支予算の事業活動支出では、人件費として 4,249,468 千円を計上しており、前年度と比較し、6,226 千円増加している。

また、教育研究経費は、豊田看護大学における教員パソコン更新に伴う消耗品費の増や、広島看護大学におけるエレベーター部品交換及び自動火災報知機の更新等による修繕費の増等の影響により、昨年度と比較し、58,551 千円の増である 2,283,626 千円を計上している。

なお、管理経費は、法人本部におけるさいたま看護学部設置にかかる入試等に関する諸経費を計上している一方で、昨年度計上した解体費用等業務委託費の減があるため、58,687 千円減少の 369,389 千円を計上している。

これらに資産処分差額等を合わせた事業活動支出は、前年度に比べ 5,170 千円増の 6,906,083 千円を計上している。

(単位：百万円)

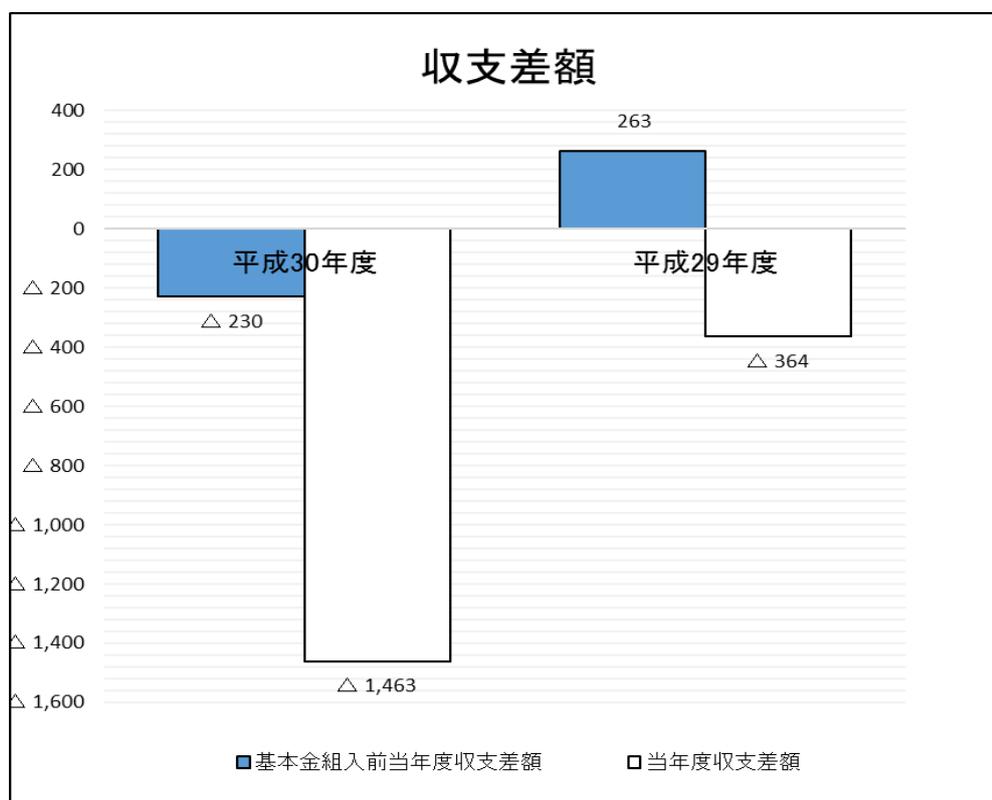


③ その他

平成 30 年度事業活動収支予算において、事業活動収入と事業活動支出の差に予備費 3,200 千円を加えた基本金組入前当年度収支差額（かつての帰属収支差額に相当する）は、前年度に比べ 492,583 千円減の△229,652 千円を計上している。

また、基本金組入額は、平成 26 年度設立の教育環境維持向上基金に対する基本金への組入れや、さいたま看護学部設置に伴う建物等の基本金計上（平成 28 年度決算での武蔵野キャンパス休校に伴う基本金繰り延べ分を控除）により、合計 1,233,452 千円を計上し、基本金組入額を含めた当年度収支差額は、△1,463,104 千円となる。

（単位：百万円）



平成 30 年度の事業活動収支予算は、前年度に比較し、基本金組入前当年度収支差額にて赤字である。

これは、認定看護師養成教育課程の休講や受取利息・配当金減等による収入減と、平成 30 年度の一時的特殊要因として、さいたま看護学部設置に伴う費用・人件費計上やパソコン購入等による費用増によるものが大きく影響している。

基本金組入れを含めた当年度収支差額は、さいたま看護学部設置に伴う基本金の組入れが大きく影響し、引き続き赤字予算を編成している。また、全国の大学を取り巻く少子化等の社会情勢が大きく変化する中で、現に厳しさを増している経営環境は先行き一層の厳しさを増すものと考えられる。

については、平成 26 年度から始まった第二次中期計画に基づき、中長期的な施設整備計画及び人員配置計画など、先を見通した計画性を持った大学経営に一層努力すると同時に、法人本部と各大学が一体となって取り組んでいくこととする。

第3. 収支予算書

1. 資金収支予算書

2. 資金収支予算内訳表

3. 事業活動収支予算書

4. 事業活動収支予算内訳表

平成30年度 資金収支予算書

(資金収入の部)

(単位:千円)

科 大 科 目	目 小 科 目	平成30年度予算	平成29年度予算	差 異
学生生徒等納付金収入		5,341,819	5,324,518	17,301
	授 業 料 収 入	3,615,977	3,606,778	9,199
	入 学 金 収 入	393,600	396,740	△ 3,140
	実 験 実 習 料 収 入	543,450	533,080	10,370
	維 持 運 営 費 収 入	778,992	778,320	672
	助 産 履 修 料 収 入	9,800	9,600	200
手 数 料 収 入		124,138	113,767	10,371
	入 学 検 定 料 収 入	110,135	99,585	10,550
	試 験 料 収 入	7,606	7,773	△ 167
	証 明 手 数 料 収 入	4,349	4,185	164
	大 学 入 試 セ ン タ ー 試 験 手 数 料 収 入	2,048	2,224	△ 176
寄 付 金 収 入		46,406	548,935	△ 502,529
	特 別 寄 付 金 収 入	9,221	512,205	△ 502,984
	一 般 寄 付 金 収 入	37,185	36,730	455
補 助 金 収 入		947,991	939,436	8,555
	国 庫 補 助 金 収 入	776,037	740,649	35,388
	地 方 公 共 団 体 補 助 金 収 入	171,954	198,787	△ 26,833
資 産 売 却 収 入		0	396	△ 396
	有 価 証 券 売 却 収 入	0	396	△ 396
付 随 事 業 ・ 収 益 事 業 収 入		58,823	75,769	△ 16,946
	受 託 事 業 収 入	28,409	26,739	1,670
	そ の 他 の 事 業 収 入	30,414	49,030	△ 18,616
受 取 利 息 ・ 配 当 金 収 入		105,334	107,541	△ 2,207
	第 3 号 基 本 金 引 当 特 定 資 産 運 用 収 入	23,612	19,467	4,145
	そ の 他 の 受 取 利 息 ・ 配 当 金 収 入	81,722	88,074	△ 6,352
雑 収 入		50,749	53,454	△ 2,705
	雑 収 入	35,095	33,150	1,945
	施 設 設 備 利 用 料 収 入	15,654	20,304	△ 4,650
借 入 金 等 収 入		0	0	0
前 受 金 収 入		508,710	608,245	△ 99,535
	授 業 料 前 受 金 収 入	65,300	144,530	△ 79,230
	入 学 金 前 受 金 収 入	399,360	397,010	2,350
	実 験 実 習 料 前 受 金 収 入	11,500	11,920	△ 420
	維 持 運 営 費 前 受 金 収 入	12,300	35,300	△ 23,000
	そ の 他 の 事 業 前 受 金 収 入	20,250	19,485	765
そ の 他 の 収 入		1,705,029	1,215,587	489,442
	退 職 給 与 引 当 特 定 資 産 取 崩 収 入	36,958	43,293	△ 6,335
	施 設 設 備 整 備 引 当 特 定 資 産 取 崩 収 入	480,353	8,804	471,549
	前 期 末 未 収 入 金 収 入	49,648	54,495	△ 4,847
	長 期 貸 付 金 回 収 収 入	3,800	2,915	885
	預 り 金 受 入 収 入	1,129,709	1,101,350	28,359
	立 替 金 回 収 収 入	4,561	4,730	△ 169
資 金 収 入 調 整 勘 定		△ 613,570	△ 653,504	39,934
	期 末 未 収 入 金	△ 48,220	△ 50,094	1,874
	前 期 末 前 受 金	△ 565,350	△ 603,410	38,060
前 年 度 繰 越 支 払 資 金		5,146,199	6,137,755	△ 991,556
	前 年 度 繰 越 支 払 資 金	5,146,199	6,137,755	△ 991,556
資 金 収 入 の 部 合 計		13,421,628	14,471,899	△ 1,050,271

(資金支出の部)

(単位:千円)

科	目	平成30年度予算	平成29年度予算	差	異
大	小				
科	科				
人件費支出		4,090,848	4,094,699		△ 3,851
	教員人件費支出	2,856,924	2,886,324		△ 29,400
	職員人件費支出	1,161,591	1,131,776		29,815
	退職金支出	72,333	76,599		△ 4,266
教育研究経費支出		1,528,716	1,495,729		32,987
	消耗品費支出	180,385	179,960		425
	光熱水費支出	177,315	178,621		△ 1,306
	旅費交通費支出	143,173	147,840		△ 4,667
	奨学費支出	81,683	63,283		18,400
	学生福利費支出	33,856	29,342		4,514
	通信運搬費支出	35,146	36,202		△ 1,056
	印刷製本費支出	31,831	30,062		1,769
	修繕費支出	81,422	47,366		34,056
	損害保険料支出	2,745	2,293		452
	賃借料支出	74,271	75,660		△ 1,389
	公租公課支出	704	540		164
	諸会費支出	31,081	34,048		△ 2,967
	委託実習費支出	47,201	46,908		293
	会議費支出	905	1,126		△ 221
	渉外費支出	3,913	3,447		466
	報酬手数料支出	35,084	42,214		△ 7,130
	業務委託費支出	566,262	574,627		△ 8,365
	学生活動補助費支出	977	969		8
	雑費支出	762	1,221		△ 459
管理経費支出		336,768	397,052		△ 60,284
	消耗品費支出	24,250	19,384		4,866
	光熱水費支出	5,557	5,764		△ 207
	旅費交通費支出	36,809	42,292		△ 5,483
	福利費支出	14,175	13,975		200
	通信運搬費支出	9,647	10,155		△ 508
	印刷製本費支出	43,815	39,428		4,387
	修繕費支出	6,604	5,164		1,440
	損害保険料支出	444	899		△ 455
	賃借料支出	26,737	21,494		5,243
	公租公課支出	9,216	9,169		47
	広報費支出	42,831	40,472		2,359
	諸会費支出	5,628	5,901		△ 273
	会議費支出	630	417		213
	渉外費支出	3,772	3,303		469
	報酬手数料支出	40,646	26,652		13,994
	業務委託費支出	65,004	151,879		△ 86,875
	雑費支出	1,003	704		299
借入金等利息支出		0	0		0
借入金等返済支出		0	0		0
施設関係支出		1,705,745	439,702		1,266,043
	建物支出	1,674,749	46,602		1,628,147
	構築物支出	5,400	0		5,400
	建設仮勘定支出	25,596	393,100		△ 367,504
設備関係支出		688,835	516,587		172,248
	教育研究用機器備品支出	566,552	449,665		116,887
	管理用機器備品支出	41,519	18,153		23,366
	ソフトウェア支出	0	12,414		△ 12,414
	図書支出	65,644	36,355		29,289
	車両支出	15,120	0		15,120
資産運用支出		851,867	1,215,461		△ 363,594
	有価証券購入支出	0	100,000		△ 100,000
	退職給与引当特定資産繰入支出	222,889	145,289		77,600
	施設設備整備引当特定資産繰入支出	328,978	665,172		△ 336,194
	大学振興引当特定資産繰入支出	0	5,000		△ 5,000
	第3号基本引当資産繰入支出	300,000	300,000		0

(単位:千円)

科	目	平成30年度予算	平成29年度予算	差
大	小			異
科	科			
その他の支出		1,508,701	1,496,194	12,507
	長期貸付金支払支出	720	720	0
	前期末未払金支払支出	359,915	359,567	348
	前期末長期未払金支払支出	12,039	31,457	△ 19,418
	預り金支払支出	1,128,760	1,096,891	31,869
	前払金支払支出	3,526	3,681	△ 155
	立替金支払支出	3,741	3,878	△ 137
予備費		3,200	4,100	△ 900
	予備費	3,200	4,100	△ 900
資金支出調整勘定		△ 369,669	△ 333,824	△ 35,845
	期末未払金	△ 354,946	△ 311,926	△ 43,020
	期末長期未払金	△ 8,735	△ 15,507	6,772
	前期末前払金	△ 5,988	△ 6,391	403
翌年度繰越支払資金		3,076,617	5,146,199	△ 2,069,582
	翌年度繰越支払資金	3,076,617	5,146,199	△ 2,069,582
資金支出の部合計		13,421,628	14,471,899	△ 1,050,271

平成30年度 資金収支予算書内訳表

(資金収入の部)

科	目	学 校 法 人	日 本 赤 十 字 看 護 大 学	日 本 赤 十 字 北 海 道 看 護 大 学
大 科 目	小 科 目			
学生生徒等納付金収入		0	1,233,330	760,575
	授 業 料 収 入	0	878,560	562,335
	入 学 金 収 入	0	98,240	56,260
	実 験 実 習 料 収 入	0	129,510	69,850
	維 持 運 営 費 収 入	0	127,020	72,130
	助 産 履 修 料 収 入	0	0	0
手 数 料 収 入		0	48,225	9,090
	入 学 検 定 料 収 入	0	45,505	7,030
	試 験 料 収 入	0	1,535	1,410
	証 明 手 数 料 収 入	0	785	500
	大 学 入 試 セ ン タ ー 試 験 手 数 料 収 入	0	400	150
寄 付 金 収 入		30,135	4,600	3,341
	特 別 寄 付 金 収 入	0	1,800	3,291
	一 般 寄 付 金 収 入	30,135	2,800	50
補 助 金 収 入		0	188,134	80,036
	国 庫 補 助 金 収 入	0	175,634	80,000
	地 方 公 共 団 体 補 助 金 収 入	0	12,500	36
資 産 売 却 収 入		0	0	0
	有 価 証 券 売 却 収 入	0	0	0
付 随 事 業 ・ 収 益 事 業 収 入		0	1,760	14,040
	受 託 事 業 収 入	0	0	13,818
	そ の 他 の 事 業 収 入	0	1,760	222
受 取 利 息 ・ 配 当 金 収 入		18,568	15,705	5,000
	第 3 号 基 本 金 引 当 特 定 資 産 運 用 収 入	18,392	5,220	0
	そ の 他 の 受 取 利 息 ・ 配 当 金 収 入	176	10,485	5,000
雑 収 入		0	21,388	3,100
	雑 収 入	0	9,976	2,700
	施 設 設 備 利 用 料 収 入	0	11,412	400
借 入 金 等 収 入		0	0	0
前 受 金 収 入		0	103,500	56,560
	授 業 料 前 受 金 収 入	0	0	0
	入 学 金 前 受 金 収 入	0	103,500	56,560
	実 験 実 習 料 前 受 金 収 入	0	0	0
	維 持 運 営 費 前 受 金 収 入	0	0	0
	そ の 他 の 事 業 前 受 金 収 入	0	0	0
そ の 他 の 収 入		10,841	302,880	185,500
	退 職 給 与 引 当 特 定 資 産 取 崩 収 入	0	0	0
	施 設 設 備 整 備 引 当 特 定 資 産 取 崩 収 入	0	0	0
	前 期 末 未 収 入 金 収 入	3,959	13,000	4,000
	長 期 貸 付 金 回 収 収 入	0	0	0
	預 り 金 受 入 収 入	6,882	289,880	180,000
	立 替 金 回 収 収 入	0	0	1,500
資 金 収 入 調 整 勘 定		0	△ 104,020	△ 58,860
	期 末 未 収 入 金	0	△ 7,220	△ 2,000
	前 期 末 前 受 金	0	△ 96,800	△ 56,860
前 年 度 繰 越 支 払 資 金		191,302	1,330,940	575,205
	前 年 度 繰 越 支 払 資 金	191,302	1,330,940	575,205
資 金 収 入 の 部 合 計		250,846	3,146,442	1,633,587

(単位:千円)

日本赤十字 秋田看護大学	日本赤十字 豊田看護大学	日本赤十字 広島看護大学	日本赤十字 九州国際看護大学	日本赤十字 秋田短期大学	総額
696,100	904,372	947,550	755,300	44,592	5,341,819
391,700	667,360	577,830	516,500	21,692	3,615,977
33,600	70,400	76,900	50,700	7,500	393,600
133,600	0	111,690	92,200	6,600	543,450
136,400	166,612	172,130	95,900	8,800	778,992
800	0	9,000	0	0	9,800
7,010	27,850	16,627	14,429	907	124,138
4,495	26,220	14,380	11,800	705	110,135
1,345	630	744	1,900	42	7,606
754	950	720	542	98	4,349
416	50	783	187	62	2,048
287	1,537	1,827	4,579	100	46,406
287	537	1,727	1,579	0	9,221
0	1,000	100	3,000	100	37,185
191,095	127,465	144,177	149,962	67,122	947,991
85,636	127,425	143,996	149,462	13,884	776,037
105,459	40	181	500	53,238	171,954
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	234	28,198	6,427	8,164	58,823
0	0	0	6,427	8,164	28,409
0	234	28,198	0	0	30,414
2,145	8,297	42,185	4,292	9,142	105,334
0	0	0	0	0	23,612
2,145	8,297	42,185	4,292	9,142	81,722
4,631	5,991	5,694	8,717	1,228	50,749
4,420	4,011	4,844	8,435	709	35,095
211	1,980	850	282	519	15,654
0	0	0	0	0	0
33,600	70,400	95,850	141,300	7,500	508,710
0	0	0	65,300	0	65,300
33,600	70,400	75,600	52,200	7,500	399,360
0	0	0	11,500	0	11,500
0	0	0	12,300	0	12,300
0	0	20,250	0	0	20,250
184,615	543,000	230,745	205,688	41,760	1,705,029
0	0	21,000	15,958	0	36,958
7,528	408,000	60,000	0	4,825	480,353
0	0	689	28,000	0	49,648
0	0	0	3,800	0	3,800
177,087	135,000	146,925	157,000	36,935	1,129,709
0	0	2,131	930	0	4,561
△ 39,250	△ 70,040	△ 123,900	△ 210,000	△ 7,500	△ 613,570
0	0	△ 8,000	△ 31,000	0	△ 48,220
△ 39,250	△ 70,040	△ 115,900	△ 179,000	△ 7,500	△ 565,350
683,869	787,998	637,540	561,954	377,391	5,146,199
683,869	787,998	637,540	561,954	377,391	5,146,199
1,764,102	2,407,104	2,026,493	1,642,648	550,406	13,421,628

(資金支出の部)

科	目	学 校 法 人	日 本 赤 十 字 看 護 大 学	日 本 赤 十 字 北 海 道 看 護 大 学
大 科 目	小 科 目			
人 件 費 支 出		145,198	867,669	478,464
	教 員 人 件 費 支 出	12,000	656,309	334,553
	職 員 人 件 費 支 出	132,370	197,618	143,911
	退 職 金 支 出	828	13,742	0
教 育 研 究 経 費 支 出		11,628	350,802	167,304
	消 耗 品 費 支 出	582	39,796	21,783
	光 熱 水 費 支 出	0	39,320	30,513
	旅 費 交 通 費 支 出	3,150	22,128	21,957
	奨 学 費 支 出	0	44,700	4,800
	学 生 福 利 費 支 出	0	8,566	5,853
	通 信 運 搬 費 支 出	355	7,079	7,799
	印 刷 製 本 費 支 出	5,930	3,137	5,927
	修 繕 費 支 出	0	9,352	2,930
	損 害 保 険 料 支 出	0	859	397
	賃 借 料 支 出	614	19,453	7,080
	公 租 公 課 支 出	0	0	56
	諸 会 費 支 出	0	7,522	2,950
	委 託 実 習 費 支 出	0	8,171	6,799
	会 議 費 支 出	33	183	21
	涉 外 費 支 出	0	1,398	149
	報 酬 手 数 料 支 出	464	12,578	3,765
	業 務 委 託 費 支 出	500	126,560	44,174
	学 生 活 動 補 助 費 支 出	0	0	0
	雑 費 支 出	0	0	351
管 理 経 費 支 出		52,497	72,116	35,849
	消 耗 品 費 支 出	1,109	2,347	1,091
	光 熱 水 費 支 出	844	922	885
	旅 費 交 通 費 支 出	8,985	1,397	3,612
	福 利 費 支 出	164	5,284	2,279
	通 信 運 搬 費 支 出	1,977	2,014	1,012
	印 刷 製 本 費 支 出	8,674	10,809	6,666
	修 繕 費 支 出	230	172	160
	損 害 保 険 料 支 出	0	67	43
	賃 借 料 支 出	11,265	5,895	120
	公 租 公 課 支 出	678	1,320	870
	広 報 費 支 出	4,657	2,616	8,759
	諸 会 費 支 出	188	1,867	820
	会 議 費 支 出	552	37	0
	涉 外 費 支 出	271	392	300
	報 酬 手 数 料 支 出	8,362	19,243	1,951
	業 務 委 託 費 支 出	4,409	17,709	7,237
	雑 費 支 出	132	25	44
借 入 金 等 利 息 支 出		0	0	0
借 入 金 等 返 済 支 出		0	0	0
施 設 関 係 支 出		1,581,352	0	0
	建 物 支 出	1,555,756	0	0
	構 築 物 支 出	0	0	0
	建 設 仮 勘 定 支 出	25,596	0	0
設 備 関 係 支 出		457,240	44,100	43,914
	教 育 研 究 用 機 器 備 品 支 出	427,240	33,296	5,521
	管 理 用 機 器 備 品 支 出	0	5,480	34,070
	ソ フ ト ウ ェ ア 支 出	0	0	0
	図 書 支 出	30,000	5,324	4,323
	車 両 支 出	0	0	0
資 産 運 用 支 出		0	245,000	91,486
	退 職 給 与 引 当 特 定	0	45,000	41,486
	資 産 繰 入 支 出	0	150,000	0
	施 設 設 備 整 備 引 当	0	0	0
	特 定 資 産 繰 入 支 出	0	0	0
	大 学 振 興 引 当 特 定	0	0	0
	資 産 繰 入 支 出	0	50,000	50,000
	第 3 号 基 本 金 引 当	0	0	0
	資 産 繰 入 支 出	0	0	0

科	目	学 校 法 人	日 本 赤 十 字 看 護 大 学	日 本 赤 十 字 北 海 道 看 護 大 学
大 科 目	小 科 目			
そ の 他 の 支 出		60,589	389,918	194,791
	長 期 貸 付 金 支 払 支 出	0	0	0
	前 期 末 未 払 金 支 払 支 出	52,821	95,046	13,000
	前 期 末 長 期 未 払 金 支 払 支 出	0	4,992	0
	預 り 金 支 払 支 出	6,642	289,880	180,000
	前 払 金 支 払 支 出	1,126	0	400
	立 替 金 支 払 支 出	0	0	1,391
予 備 費		100	0	100
	予 備 費	100	0	100
資 金 支 出 調 整 勘 定		△ 66,854	△ 109,537	△ 20,000
	期 末 未 払 金	△ 65,866	△ 102,872	△ 15,000
	期 末 長 期 未 払 金	0	△ 6,665	0
	前 期 末 前 払 金	△ 988	0	△ 5,000
翌 年 度 繰 越 支 払 資 金		493,014	719,284	294,648
	翌 年 度 繰 越 支 払 資 金	493,014	719,284	294,648
資 金 支 出 の 部 合 計		2,734,764	2,579,352	1,286,556

(単位:千円)

日本赤十字 秋田看護大学	日本赤十字 豊田看護大学	日本赤十字 広島看護大学	日本赤十字 九州国際看護大学	日本赤十字 秋田短期大学	総額
568,131	671,589	676,607	594,245	88,945	4,090,848
409,752	488,025	478,023	396,257	82,005	2,856,924
148,379	169,567	177,584	185,222	6,940	1,161,591
10,000	13,997	21,000	12,766	0	72,333
198,957	292,415	270,958	204,035	32,617	1,528,716
25,833	38,044	22,460	27,169	4,718	180,385
21,821	33,230	27,621	22,361	2,449	177,315
22,534	22,529	26,580	18,500	5,795	143,173
5,525	6,000	10,000	9,425	1,233	81,683
2,343	3,251	7,812	5,540	491	33,856
5,736	5,317	4,423	3,473	964	35,146
4,415	4,517	2,034	4,611	1,260	31,831
7,282	14,459	36,277	10,088	1,034	81,422
390	198	396	386	119	2,745
17,414	10,715	5,374	11,378	2,243	74,271
72	0	92	476	8	704
6,448	5,597	5,376	1,667	1,521	31,081
4,898	10,346	11,932	3,765	1,290	47,201
254	176	147	30	61	905
883	618	631	184	50	3,913
3,082	3,554	3,116	7,500	1,025	35,084
69,827	133,728	106,401	76,885	8,187	566,262
165	100	100	447	165	977
35	36	186	150	4	762
38,752	43,910	50,998	31,437	11,209	336,768
1,535	10,536	3,280	3,900	452	24,250
899	453	679	800	75	5,557
6,703	2,405	8,442	3,716	1,549	36,809
907	1,438	2,474	1,424	205	14,175
842	1,879	1,292	400	231	9,647
2,894	7,455	3,302	2,118	1,897	43,815
212	500	2,000	3,312	18	6,604
1	229	7	96	1	444
1,986	3,228	1,137	2,555	551	26,737
1,276	520	1,899	1,615	1,038	9,216
9,544	3,417	8,228	3,640	1,970	42,831
695	139	1,158	356	405	5,628
1	0	0	40	0	630
569	519	724	860	137	3,772
2,048	2,024	2,507	3,200	1,311	40,646
8,521	9,168	13,738	2,881	1,341	65,004
119	0	131	524	28	1,003
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
44,508	0	11,340	63,720	4,825	1,705,745
44,508	0	11,340	58,320	4,825	1,674,749
0	0	0	5,400	0	5,400
0	0	0	0	0	25,596
50,913	34,957	32,962	23,214	1,535	688,835
45,700	28,095	21,516	5,184	0	566,552
0	862	1,107	0	0	41,519
0	0	0	0	0	0
5,213	6,000	10,339	2,910	1,535	65,644
0	0	0	15,120	0	15,120
170,269	73,481	81,227	127,260	63,144	851,867
44,543	23,481	31,227	27,260	9,892	222,889
75,726	0	0	50,000	53,252	328,978
0	0	0	0	0	0
50,000	50,000	50,000	50,000	0	300,000

(単位:千円)

日本赤十字 秋田看護大学	日本赤十字 豊田看護大学	日本赤十字 広島看護大学	日本赤十字 九州国際看護大学	日本赤十字 秋田短期大学	総 額
244,248	186,954	183,328	206,332	42,541	1,508,701
360	0	0	0	360	720
66,567	44,977	31,886	50,000	5,618	359,915
2,070	4,977	0	0	0	12,039
175,251	135,000	149,392	156,032	36,563	1,128,760
0	2,000	0	0	0	3,526
0	0	2,050	300	0	3,741
1,000	0	2,000	0	0	3,200
1,000	0	2,000	0	0	3,200
△ 21,797	△ 44,977	△ 31,886	△ 69,000	△ 5,618	△ 369,669
△ 19,727	△ 44,977	△ 31,886	△ 69,000	△ 5,618	△ 354,946
△ 2,070	0	0	0	0	△ 8,735
0	0	0	0	0	△ 5,988
92,979	728,140	308,394	107,866	332,292	3,076,617
92,979	728,140	308,394	107,866	332,292	3,076,617
1,387,960	1,986,469	1,585,928	1,289,109	571,490	13,421,628

平成30年度 事業活動収支予算書

(単位:千円)

区分	科目		平成30年度予算	平成29年度予算	差異
	大科目	小科目			
教育活動収入の部	学生生徒等納付金	授業料	5,341,819	5,324,518	17,301
		入学料	3,615,977	3,606,778	9,199
		実習料	393,600	396,740	△ 3,140
		実習費	543,450	533,080	10,370
		維持費	778,992	778,320	672
		助産履修料	9,800	9,600	200
	手数料	入学検定料	124,138	113,767	10,371
		試験料	110,135	99,585	10,550
		証明手数料	7,606	7,773	△ 167
		大学入試センター試験 手数料	4,349	4,185	164
	寄付金	大学入試センター試験 手数料	2,048	2,224	△ 176
		特別寄付金	46,391	49,113	△ 2,722
		一般寄付金	8,971	11,955	△ 2,984
	経常費等補助金	現物寄付金	37,185	36,730	455
国庫補助金		235	428	△ 193	
地方公共団体補助金		945,168	939,436	5,732	
付随事業収入	国庫補助金	776,037	740,649	35,388	
	受託事業収入	169,131	198,787	△ 29,656	
	その他の事業収入	58,823	75,769	△ 16,946	
雑収入	受託事業収入	28,409	26,739	1,670	
	雑収入	30,414	49,030	△ 18,616	
	施設設備利用料	50,749	53,454	△ 2,705	
教育活動収入計			6,567,088	6,556,057	11,031
事業活動支出の部	人件費	雑収入	35,095	33,150	1,945
		施設設備利用料	15,654	20,304	△ 4,650
		人件費	4,249,468	4,243,242	6,226
		教員人件費	2,856,924	2,886,324	△ 29,400
		職員人件費	1,161,591	1,131,776	29,815
	教育研究経費	退職金	1,128	726	402
		退職給与引当金繰入額	229,825	224,416	5,409
		消耗品費	2,283,626	2,225,075	58,551
		光熱水費	180,385	180,060	325
		旅費交通費	177,315	178,621	△ 1,306
		奨学費	143,173	147,840	△ 4,667
		学生福利費	81,683	63,283	18,400
		通信運搬費	33,856	29,342	4,514
		印刷製本費	35,146	36,202	△ 1,056
		修繕費	31,831	30,062	1,769
		損害保険料	81,422	47,366	34,056
		賃借料	2,745	2,293	452
		公租公課	74,271	75,660	△ 1,389
		諸会費	704	540	164
		委託実習費	31,081	34,048	△ 2,967
		会議費	47,201	46,908	293
		渉外費	905	1,126	△ 221
		報酬手数料	3,913	3,447	466
		業務委託費	35,084	42,214	△ 7,130
		学生活動補助費	566,262	574,627	△ 8,365
		減価償却額	977	969	8
		雑費	754,910	729,246	25,664
	762	1,221	△ 459		

(単位:千円)

区分	科 目		平成 30 年度 予算	平成 29 年度 予算	差 異	
	大 科 目	小 科 目				
	管 理 経 費		369,189	428,076	△ 58,887	
		消 耗 品 費	24,250	19,384	4,866	
		光 熱 水 費	5,557	5,764	△ 207	
		旅 費 交 通 費	36,809	42,292	△ 5,483	
		福 利 費	14,175	13,975	200	
		通 信 運 搬 費	9,647	10,155	△ 508	
		印 刷 製 本 費	43,815	39,428	4,387	
		修 繕 費	6,604	5,164	1,440	
		損 害 保 険 料	444	899	△ 455	
		賃 借 料	26,737	21,494	5,243	
		公 租 公 課	9,216	9,169	47	
		広 報 費	42,831	40,472	2,359	
		諸 会 費	5,628	5,901	△ 273	
		会 議 費	630	417	213	
		渉 外 費	3,772	3,303	469	
		報 酬 手 数 料	40,646	26,652	13,994	
	業 務 委 託 費	65,004	151,879	△ 86,875		
減 価 償 却 額	32,421	31,024	1,397			
雑 費	1,003	704	299			
	徴 収 不 能 額 等		200	0	200	
	徴 収 不 能 額		200	0	200	
	教育活動支出計		6,902,483	6,896,393	6,090	
	教育活動収支差額		△ 335,395	△ 340,336	4,941	
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	104,334	106,641	△ 2,307	
		第3号基本金引当特定 資産運用収入	23,612	19,467	4,145	
		その他の受取利息・配当金	80,722	87,174	△ 6,452	
		その他の教育活動外収入		0	0	
		教育活動外収入計		104,334	106,641	△ 2,307
	事業活動支出の部	借入金等利息		0	0	
		その他の教育活動外支出		0	0	
教育活動外支出計			0	0		
	教育活動外収支差額		104,334	106,641	△ 2,307	
	経常収支差額		△ 231,061	△ 233,695	2,634	
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	0	396	△ 396	
		有価証券売却差額	0	396	△ 396	
		その他の特別収入	5,009	500,750	△ 495,741	
		施設設備寄付金	250	500,250	△ 500,000	
		現物寄付金	1,936	500	1,436	
	施設設備補助金	2,823	0	2,823		
		特別収入計		5,009	501,146	△ 496,137
	事業活動支出の部	資産処分差額	400	420	△ 20	
		設備処分差額	400	300	100	
		有価証券処分差額	0	120	△ 120	
その他の特別支出		0	0	0		
	特別支出計		400	420	△ 20	
	特別収支差額		4,609	500,726	△ 496,117	
	予備費		3,200	4,100	△ 900	
	基本金組入前当年度収支差額		△ 229,652	262,931	△ 492,583	
	基本金組入額合計		△ 1,233,452	△ 626,669	△ 606,783	
	当年度収支差額		△ 1,463,104	△ 363,738	△ 1,099,366	
	基本金取崩額		0	0	0	
	(参考)					
	事業活動収入計		6,676,431	7,163,844	△ 487,413	
	事業活動支出計		6,906,083	6,900,913	5,170	

平成30年度 事業活動収支予算内訳表

区分	科 目		学 校 法 人	日 本 赤 十 字	日 本 赤 十 字
	大 科 目	小 科 目		看 護 大 学	北 海 道 看 護 大 学
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	0	1,233,330	760,575
		授 業 料 入 学 金 実 験 実 習 料 維 持 運 営 費 助 産 履 修 料	0	878,560	562,335
			0	98,240	56,260
			0	129,510	69,850
			0	127,020	72,130
			0	0	0
		手 数 料	0	48,225	9,090
			0	45,505	7,030
			0	1,535	1,410
			0	785	500
	寄 付 金	0	400	150	
		30,135	4,600	3,441	
		0	1,800	3,291	
	経 常 費 等 補 助 金	30,135	2,800	50	
		0	0	100	
		0	188,134	80,036	
	付 随 事 業 収 入	0	175,634	80,000	
0		12,500	36		
雑 収 入	0	1,760	14,040		
	0	0	13,818		
	0	1,760	222		
教育活動収入計			30,135	1,497,437	870,282
事業活動支出の部	人 件 費	145,693	903,927	519,950	
		12,000	656,309	334,553	
		132,370	197,618	143,911	
		828	0	0	
	495	50,000	41,486		
	教 育 研 究 経 費	27,309	515,189	257,870	
		582	39,796	21,783	
		0	39,320	30,513	
		3,150	22,128	21,957	
		0	44,700	4,800	
		0	8,566	5,853	
		355	7,079	7,799	
		5,930	3,137	5,927	
		0	9,352	2,930	
		0	859	397	
		614	19,453	7,080	
		0	0	56	
0		7,522	2,950		
0	8,171	6,799			
33	183	21			
0	1,398	149			
464	12,578	3,765			
500	126,560	44,174			
0	0	0			
15,681	164,387	90,566			
0	0	351			

区分	科 目		学 校 法 人	日 本 赤 十 字 看 護 大 学	日 本 赤 十 字 北 海 道 看 護 大 学
	大 科 目	小 科 目			
	管 理 経 費	消 耗 品 費	52,879	77,208	38,923
		光 熱 水 費	1,109	2,347	1,091
		旅 費 交 通 費	844	922	885
		福 利 交 通 費	8,985	1,397	3,612
		通 信 運 搬 費	164	5,284	2,279
		印 刷 製 本 費	1,977	2,014	1,012
		修 繕 繕 修 費	8,674	10,809	6,666
		損 害 保 險 費	230	172	160
		賃 借 料	0	67	43
		公 租 公 課	11,265	5,895	120
		廣 告 報 費	678	1,320	870
		諸 会 議 費	4,657	2,616	8,759
		会 社 外 費	188	1,867	820
		渉 外 手 数 料	552	37	0
		報 酬 委 託 費	271	392	300
		業 務 手 委 託 費	8,362	19,243	1,951
		減 価 償 却 額	4,409	17,709	7,237
		雑 費	382	5,092	3,074
			132	25	44
		徴 収 不 能 額 等	0	0	200
	徴 収 不 能 額	0	0	200	
	教育活動支出計	225,881	1,496,324	816,943	
	教育活動収支差額	△ 195,746	1,113	53,339	

区分	科 目		法 人 本 部	日 本 赤 十 字 看 護 大 学	日 本 赤 十 字 北 海 道 看 護 大 学
	大 科 目	小 科 目			
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	18,568	15,705	5,000
		第3号基本金引当特定 資産運用収入 その他の受取利息・配当金	18,392	5,220	0
			176	10,485	5,000
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	18,568	15,705	5,000
	事業活動支出の部	借入金等利息	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0
		教育活動外収支差額	18,568	15,705	5,000
		経常収支差額	△ 177,178	16,818	58,339

区分	科 目		法 人 本 部	日 本 赤 十 字 看 護 大 学	日 本 赤 十 字 北 海 道 看 護 大 学
	大 科 目	小 科 目			
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	0	0	0
		有価証券売却差額	0	0	0
			0	100	100
		その他の特別収入	0	0	0
	施設設備寄付金	0	0	0	
		0	100	100	
		0	0	0	
		特別収入計	0	100	100
	事業活動支出の部	資産処分差額	0	0	300
		設備処分差額	0	0	300
0			0	0	
その他の特別支出		0	0	0	
	特別支出計	0	0	300	
	特別収支差額	0	100	△ 200	

予備費	100	0	100
基本金繰入前当年度収支差額	△ 177,278	16,918	58,039
基本金組入額合計	△ 614,605	△ 82,300	△ 89,916
当年度収支差額	△ 791,883	△ 65,382	△ 31,877
基本金取崩額	0	0	0

(参考)

事業活動収入計	48,703	1,513,242	875,382
事業活動支出計	225,981	1,496,324	817,343

(単位:千円)

日本赤十字 秋田看護大学	日本赤十字 豊田看護大学	日本赤十字 広島看護大学	日本赤十字 九州国際看護大学	日本赤十字 秋田短期大学	総額
696,100	904,372	947,550	755,300	44,592	5,341,819
391,700	667,360	577,830	516,500	21,692	3,615,977
33,600	70,400	76,900	50,700	7,500	393,600
133,600	0	111,690	92,200	6,600	543,450
136,400	166,612	172,130	95,900	8,800	778,992
800	0	9,000	0	0	9,800
7,010	27,850	16,627	14,429	907	124,138
4,495	26,220	14,380	11,800	705	110,135
1,345	630	744	1,900	42	7,606
754	950	720	542	98	4,349
416	50	783	187	62	2,048
287	1,287	1,827	4,693	121	46,391
287	287	1,727	1,579	0	8,971
0	1,000	100	3,000	100	37,185
0	0	0	114	21	235
188,272	127,465	144,177	149,962	67,122	945,168
85,636	127,425	143,996	149,462	13,884	776,037
102,636	40	181	500	53,238	169,131
0	234	28,198	6,427	8,164	58,823
0	0	0	6,427	8,164	28,409
0	234	28,198	0	0	30,414
4,631	5,991	5,694	8,717	1,228	50,749
4,420	4,011	4,844	8,435	709	35,095
211	1,980	850	282	519	15,654
896,300	1,067,199	1,144,073	939,528	122,134	6,567,088
602,974	681,073	686,835	610,179	98,837	4,249,468
409,752	488,025	478,023	396,257	82,005	2,856,924
148,379	169,567	177,584	185,222	6,940	1,161,591
300	0	0	0	0	1,128
44,543	23,481	31,228	28,700	9,892	229,825
273,366	447,544	392,805	286,637	82,906	2,283,626
25,833	38,044	22,460	27,169	4,718	180,385
21,821	33,230	27,621	22,361	2,449	177,315
22,534	22,529	26,580	18,500	5,795	143,173
5,525	6,000	10,000	9,425	1,233	81,683
2,343	3,251	7,812	5,540	491	33,856
5,736	5,317	4,423	3,473	964	35,146
4,415	4,517	2,034	4,611	1,260	31,831
7,282	14,459	36,277	10,088	1,034	81,422
390	198	396	386	119	2,745
17,414	10,715	5,374	11,378	2,243	74,271
72	0	92	476	8	704
6,448	5,597	5,376	1,667	1,521	31,081
4,898	10,346	11,932	3,765	1,290	47,201
254	176	147	30	61	905
883	618	631	184	50	3,913
3,082	3,554	3,116	7,500	1,025	35,084
69,827	133,728	106,401	76,885	8,187	566,262
165	100	100	447	165	977
74,409	155,129	121,847	82,602	50,289	754,910
35	36	186	150	4	762

(単位:千円)

日本赤十字 秋田看護大学	日本赤十字 豊田看護大学	日本赤十字 広島看護大学	日本赤十字 九州国際看護大学	日本赤十字 秋田短期大学	総額
40,070	54,717	54,947	36,273	14,172	369,189
1,535	10,536	3,280	3,900	452	24,250
899	453	679	800	75	5,557
6,703	2,405	8,442	3,716	1,549	36,809
907	1,438	2,474	1,424	205	14,175
842	1,879	1,292	400	231	9,647
2,894	7,455	3,302	2,118	1,897	43,815
212	500	2,000	3,312	18	6,604
1	229	7	96	1	444
1,986	3,228	1,137	2,555	551	26,737
1,276	520	1,899	1,615	1,038	9,216
9,544	3,417	8,228	3,640	1,970	42,831
695	139	1,158	356	405	5,628
1	0	0	40	0	630
569	519	724	860	137	3,772
2,048	2,024	2,507	3,200	1,311	40,646
8,521	9,168	13,738	2,881	1,341	65,004
1,318	10,807	3,949	4,836	2,963	32,421
119	0	131	524	28	1,003
0	0	0	0	0	200
0	0	0	0	0	200
916,410	1,183,334	1,134,587	933,089	195,915	6,902,483
△ 20,110	△ 116,135	9,486	6,439	△ 73,781	△ 335,395

日本赤十字 秋田看護大学	日本赤十字 豊田看護大学	日本赤十字 広島看護大学	日本赤十字 九州国際看護大学	日本赤十字 秋田短期大学	総額
2,145	8,297	42,185	3,292	9,142	104,334
0	0	0	0	0	23,612
2,145	8,297	42,185	3,292	9,142	80,722
0	0	0	0	0	0
2,145	8,297	42,185	3,292	9,142	104,334
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
2,145	8,297	42,185	3,292	9,142	104,334
△ 17,965	△ 107,838	51,671	9,731	△ 64,639	△ 231,061

日本赤十字 秋田看護大学	日本赤十字 豊田看護大学	日本赤十字 広島看護大学	日本赤十字 九州国際看護大学	日本赤十字 秋田短期大学	総額
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
3,127	250	0	1,428	4	5,009
0	250	0	0	0	250
304	0	0	1,428	4	1,936
2,823	0	0	0	0	2,823
3,127	250	0	1,428	4	5,009
0	0	0	100	0	400
0	0	0	100	0	400
0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0
0	0	0	100	0	400
3,127	250	0	1,328	4	4,609

1,000	0	2,000	0	0	3,200
△ 15,838	△ 107,588	49,671	11,059	△ 64,635	△ 229,652
△ 138,422	△ 89,934	△ 82,962	△ 132,408	△ 2,905	△ 1,233,452
△ 154,260	△ 197,522	△ 33,291	△ 121,349	△ 67,540	△ 1,463,104
0	0	0	0	0	0

901,572	1,075,746	1,186,258	944,248	131,280	6,676,431
917,410	1,183,334	1,136,587	933,189	195,915	6,906,083